**評価項目**

－ 目　次 －

[[No.1] 子どもの権利について、子どもに対して適切に説明されているか 1](#_Toc522037096)

[[No.2] 子どもの意見等が尊重される仕組みがあるか 2](#_Toc522037097)

[[No.3] 保護開始にあたり、子どもに対して適切に説明し、合意を得ているか 3](#_Toc522037098)

[[No.4] 保護期間中に、子どもに対して適切に説明し、合意を得ているか 4](#_Toc522037099)

[[No.5] 保護解除について、子どもに対して適切に説明し、合意を得ているか 5](#_Toc522037100)

[[No.6] 保護解除に向けて、子どもに対して必要な支援を行っているか 6](#_Toc522037101)

[[No.7] 外出、通信、面会、行動等は適切に行われているか 7](#_Toc522037102)

[[No.8] 被措置児童等の虐待防止に努めるとともに、発生時の対応は適切に行われているか 8](#_Toc522037103)

[[No.9] 子ども同士での暴力等の防止に努めるとともに、発生時の対応は適切に行われているか 9](#_Toc522037104)

[[No.10] 思想や信教の自由の保障が適切に行われているか 10](#_Toc522037105)

[[No.11] 性的なアイデンティティへの配慮が適切に行われているか 11](#_Toc522037106)

[[No.12] 子どもとの関わりにおいて、子どもが安全感・安心感・信頼感を持てる養育・支援を行っているか 12](#_Toc522037107)

[[No.13] 子どものエンパワメントにつながる養育・支援を行っているか 14](#_Toc522037108)

[[No.14] 子どもからの聴き取り等にあたり、子どもへの配慮や説明などが適切に行われているか 15](#_Toc522037109)

[[No.15] 一時保護所としての設備運営基準は遵守されているか 16](#_Toc522037110)

[[No.16] 一時保護所は、個別性が尊重される環境となっているか 17](#_Toc522037111)

[[No.17] 一時保護所内の生活環境が適切に整備されているか 18](#_Toc522037112)

[[No.18] 管理者としての役割が明確になっており、その責務が全うされているか 20](#_Toc522037113)

[[No.19] 一時保護所として、必要な適切な職員体制が確保されているか 21](#_Toc522037114)

[[No.20] 各職種の役割や求められる専門性・能力を考慮した人員配置が行われているか 22](#_Toc522037115)

[[No.21] 情報管理が適切に行われているか 23](#_Toc522037116)

[[No.22] 職員の専門性の向上及び意識共有のための取組が適切に行われているか 25](#_Toc522037117)

[[No.23] 職員間での情報共有・引継等が適切に行われているか 27](#_Toc522037118)

[[No.24] 児童福祉司との連携が適切に行われているか 28](#_Toc522037119)

[[No.25] 職場環境としての法令遵守や環境改善に取組んでいるか 29](#_Toc522037120)

[[No.26] 医療機関との連携が適切に行われているか 30](#_Toc522037121)

[[No.27] 警察署との連携が適切に行われているか 31](#_Toc522037122)

[[No.28] 施設や里親等との連携が図られているか 32](#_Toc522037123)

[[No.29] 子どもの養育・支援を適切に行うために、必要な関係機関との連携が適宜行われているか 33](#_Toc522037124)

[[No.30] 一時保護の目的に即した理念・基本方針となっているか 34](#_Toc522037125)

[[No.31] 一時保護所の年度単位での事業計画の策定や目標設定を行っているか 35](#_Toc522037126)

[[No.32] 緊急保護は、適切に行われているか 36](#_Toc522037127)

[[No.33] 一時保護所における生活面のケアは、適切に行われているか 37](#_Toc522037128)

[[No.34] レクリエーションのための環境やプログラム等が適切に提供されているか 38](#_Toc522037129)

[[No.35] 食事が適切に提供されているか 39](#_Toc522037130)

[[No.36] 子どもの衣服は適切に提供されているか 41](#_Toc522037131)

[[No.37] 子どもの睡眠は適切に行われているか 42](#_Toc522037132)

[[No.38] 子どもの健康管理が適切に行われているか 43](#_Toc522037133)

[[No.39] 子どもの教育・学習支援が適切に行われているか 44](#_Toc522037134)

[[No.40] 未就学児に対しては適切な保育を行っているか 45](#_Toc522037135)

[[No.41] 家族等との面会や、家族等に関する情報提供等は適切に行われているか 46](#_Toc522037136)

[[No.42] 子どもの性的問題に対して、適切な対応が行われているか 47](#_Toc522037137)

[[No.43] 他害や自傷行為を行う可能性のある子どもに対して、適切な対応を行っているか 48](#_Toc522037138)

[[No.44] 無断外出を行う子どもに対して、適切な対応を行っているか 49](#_Toc522037139)

[[No.45] 重大事件に係る触法少年に対して、適切な対応を行っているか 51](#_Toc522037140)

[[No.46] 身近な親族等を失った子どもに対して、適切な対応を行っているか 52](#_Toc522037141)

[[No.47] 被虐待児を受け入れる場合には、適切な対応・体制確保が行われているか 53](#_Toc522037142)

[[No.48] 障害児を受け入れる場合には、適切な対応・体制確保が行われているか 54](#_Toc522037143)

[[No.49] 健康上配慮が必要な子どもを受け入れる場合には、適切な対応・体制確保が行われているか 56](#_Toc522037144)

[[No.50] 無断外出の防止に努めるとともに、発生時の対応は明確になっているか 57](#_Toc522037145)

[[No.51] 災害発生時の対応は明確になっているか 58](#_Toc522037146)

[[No.52] 感染症の予防に努めるとともに、発生時の対応が明確になっているか 59](#_Toc522037147)

[[No.53] 一時保護所の運営・業務に関する基本的な対応方針や手順は明確になっているか 60](#_Toc522037148)

[[No.54] 一時保護所としての質の向上を行うための仕組みがあるか 62](#_Toc522037149)

[[No.55] 保護開始にあたって、子どもや子どもの家庭に関する情報等が適切に把握されているか 63](#_Toc522037150)

[[No.56] 保護開始にあたり、関係機関等と連携して総合的なアセスメントを行い、支援方針を決定しているか 64](#_Toc522037151)

[[No.57] 援助指針に沿った個別ケアを行っているか 65](#_Toc522037152)

[[No.58] 一時保護中において、子どもの変化に応じた支援方針の見直し等が行えているか 66](#_Toc522037153)

[[No.59] 一時保護中の子どもについて、行動観察が適切に行われているか 67](#_Toc522037154)

[[No.60] 観察会議が適切に実施されているか 68](#_Toc522037155)

[[No.61] 保護開始にあたり、必要な支援が適切に行われているか 69](#_Toc522037156)

[[No.62] 一時保護中の子どもの所持物について、適切な対応が行われているか 70](#_Toc522037157)

[[No.63] 保護解除にあたり、関係機関等に対し、必要な情報が適切に提供されているか 71](#_Toc522037158)

[[No.64] 保護解除にあたり、子どもの所持物について、適切な対応が行われているか 72](#_Toc522037159)

# 子ども本位の養育・支援

**[No.1]　子どもの権利について、子どもに対して適切に説明されているか**

◆ねらい

一時保護にあたり、子どもの権利及び制限される内容や、権利が侵害された時の解決方法について、子どもに対して適切に説明されているかを評価します。

## 子どもの権利保障

### 権利保障

#### 子どもの権利に関する説明

##### 子どもの権利について、子どもに対して適切に説明されているか

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | | | |
|  | | | |
|  | | ［No.1］の評価（s,a,b,c） |  |
|  | | | |
| 判断基準  （✓評価の視点・ポイント） | | | 評価  （○,△,×） |
| 子どもの権利について、子どもの年齢や理解に応じて、分かりやすく説明しているか | | |  |
|  | * 子どもの権利を説明するツールを作成・活用している * 日常生活の中で伝える取組をしている | | |
| 子どもの権利が侵害された時の解決方法を説明しているか | | |  |
|  | * 職員や第三者に相談ができる具体的な方法を説明している | | |
| その他工夫している点 | | | |
|  | | | |
| ◆評価の留意点  一時保護において、子どもの権利が守られることが重要であり、その内容について子どもに対してもきちんと説明を行う必要があります。  説明すべき事項が網羅されているかに加え、対象が子どもであることから、子どもの年齢や理解に応じた説明が行われているか、子どもが理解しやすいようなツールを作成するなどの工夫がされているかなどを確認します。  また、一時保護開始時だけでなく、保護開始後の日常生活においても必要な場面でその内容を伝えることも重要な観点であることから、保護開始後の対応についての職員の意識や具体的な取組みについても確認する必要があります。 | | | |

#### 子どもの意見が尊重される仕組みの構築

##### 子どもの意見等が尊重される仕組みがあるか

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| **[No.2]　子どもの意見等が尊重される仕組みがあるか**  ◆ねらい  一時保護された子どもの意見が適切に表明されるような配慮がなされているか、また子どもの意見を一時保護等に反映する取組みが行われているかを評価します。 | | | |
|  | | | |
|  | | ［No.2］の評価（s,a,b,c） |  |
|  | | | |
| 判断基準  （✓評価の視点・ポイント） | | | 評価  （○,△,×） |
| 子どもの意見・要望・苦情等が適切に表明されるような配慮を行っているか | | |  |
|  | * 子どもが意見等を表明してよいことを分かりやすく説明している * 子どもの意見等を積極的に把握する取組が行われている（例．子どもの意見把握のためのアンケートやヒアリングなどを実施） * 子どもが意見等を言いやすくなるような工夫がされている * 子どもから、意見等が出されている * 子どもが自主的・主体的に提案したり、取組ができる仕組みがある * 苦情解決の体制が整備されている | | |
| 子どもの意見を尊重して一時保護等の質の向上を図る取組が行われているか | | |  |
|  | * 子どもの意見等があった場合の対応方法が明確になっている * 実際に子どもの意見等が反映された事例がある | | |
| その他工夫している点 | | | |
|  | | | |
| ◆評価の留意点  まずは、子どもが意見・要望・苦情等を表明できる仕組みがあるかを確認します。職員とのかかわりの中で意見が表明されることが望ましいですが、子どもにとっては言いにくいこともあるため、意見箱の設置や第三者委員等の窓口の設置などの体制を構築する必要があります。  次に、これらの仕組みにより、子どもの意見等が出されているかを確認します。子どもから意見等が出されていない場合には、意見等を表明してよいことやその仕組みについて、子どもに分かりやすく説明ができているかを確認するとともに、意見等を表明しやすい、相談しやすい仕組みとなるような工夫が必要であると考えられます。  一時保護所側から、積極的に子どもの意見を把握する取組みが行われているかも重要です。退所時や定期的なアンケートを実施するなどの取組みがなされているかを確認します。  把握した子どもの意見等が尊重されていなくてはなりません。子どもの意見等に対して、どのように対応しているか、一時保護等の質の向上を図る取組みに反映される仕組みがあるか、また実際に反映した事例があるかを確認してください。 | | | |

### 子どもに対する説明・合意

#### 保護開始に関わる説明・合意

##### 保護開始にあたり、子どもに対して適切に説明し、合意を得ているか

**[No.3]　保護開始にあたり、子どもに対して適切に説明し、合意を得ているか**

◆ねらい

一時保護の開始にあたり、子どもに対して必要な説明がなされているか、また子どもが理解できるよう伝える工夫が行われているかを評価します。

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | | | |
|  | | | |
|  | | ［No.3］の評価（s,a,b,c） |  |
|  | | | |
| 判断基準  （✓評価の視点・ポイント） | | | 評価  （○,△,×） |
| 一時保護の理由や目的、一時保護所での生活等について、子どもの年齢や理解に応じて分かりやすく説明し、理解を得ているか | | |  |
|  | * 保護開始にあたり、一時保護の理由や目的を子どもに説明している * 一時保護の期間等について、できるだけ具体的な見通しを伝えている * 一時保護所での生活、注意事項を説明している（例．私物の取り扱いなどを丁寧に説明している） * リーフレット等のツールを作成・活用している * 子どもにも分かる表現を用いて、具体的に説明をしている * 丁寧な説明や上手に伝える技術を有する職員が説明している | | |
| 不服申し立ての方法等について、保護者・子どもに示しているか | | |  |
|  |  | | |
| その他工夫している点 | | | |
|  | | | |
| ◆評価の留意点  一時保護の開始にあたっては、一時保護の理由や目的などについて分かりやすく丁寧に説明し、同意を得て行えるよう努めなくてはなりません。  まずは、一時保護の開始にあたり、一時保護の理由、目的、予定される概ねの期間、入所中の生活などについての説明がなされているかを確認します。特に、一時保護は、子どもが安全で安心できる場所を提供し、その後の安全・安心な生活をつくっていくことが目的であることが説明されているかの確認が必要です。  加えて、それらの説明が、子どもの年齢や状況に合わせて分かりやすく丁寧に伝えるためにどのような工夫がされているか、その具体的な取組みを確認してください。 | | | |

#### 保護期間中の説明・合意

##### 保護期間中に、子どもに対して適切に説明し、合意を得ているか

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| **[No.4]　保護期間中に、子どもに対して適切に説明し、合意を得ているか**  ◆ねらい  保護期間中にも、現状や見通しについて子どもに対する説明が行われているかを評価します。 | | | |
|  | | | |
|  | | ［No.4］の評価（s,a,b,c） |  |
|  | | | |
| 判断基準  （✓評価の視点・ポイント） | | | 評価  （○,△,×） |
| 保護期間中に、適宜子どもに対して、現状や見通しについて説明をしているか | | |  |
|  | * 家族との調整状況等の現状について子どもに伝えている * 現状等を踏まえた一時保護の見通しについて子どもに伝えている * 子どもが理解できるよう、具体的に説明している * 継続の手続きを行う場合には、改めて現状と見通しを伝えている | | |
| その他工夫している点 | | | |
|  | | | |
| ◆評価の留意点  いつまでどのような生活をするのかを、子どもの年齢や状況にあわせて伝えることは、子どもの不安をできるだけ少なくすることにつながります。  一時保護の開始時だけでなく、一時保護期間中にも、適宜子どもに対して現状や見通しについて説明を行っているかを確認します。 | | | |

#### 保護解除に関わる説明・合意

##### 保護解除について、子どもに対して適切に説明し、合意を得ているか

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| **[No.5]　保護解除について、子どもに対して適切に説明し、合意を得ているか**  ◆ねらい  一時保護の解除にあたり、子どもに対して必要な説明がなされているか、また子どもの気持ちに配慮した対応や支援が行われているかを評価します。 | | | |
|  | | | |
|  | | ［No.5］の評価（s,a,b,c） |  |
|  | | | |
| 判断基準  （✓評価の視点・ポイント） | | | 評価  （○,△,×） |
| 一時保護の解除にあたっては、子どもの意向、意見や気持ちを十分に聞けているか | | |  |
|  |  | | |
| 一時保護解除について、伝える時期に十分に配慮しているか | | |  |
|  |  | | |
| 子どもや保護者等の意見等を踏まえ、復帰時期、復帰後の生活等について十分に検討しているか | | |  |
|  |  | | |
| 家庭復帰ができない場合、理由、その後の生活の見通し等を十分に伝え、子どもが納得できるよう対応しているか | | |  |
|  |  | | |
| 家庭復帰ができない場合、児童養護施設の見学や里親に会えるようにしているか | | |  |
|  | * 移動先となる施設や里親との交流機会をつくっている * 施設見学、事前面接、パンフレット等の提供が行われている | | |
| その他工夫している点 | | | |
|  | | | |
| ◆評価の留意点  一時保護の解除により、最初に抱いた不安・怒り・悲しみの再現につながることもあります。中でも、里親委託や施設入所等に移行する子どもについては、家族との生活を失うことや環境の変化に対する不安を感じています。  一時保護の解除にあたり、解除について伝える時期についてどのような配慮がされているか、子どもの意向、意見や気持ちを十分に聞けているかを確認します。  また家庭復帰または里親委託や施設入所等への移行など、各々の保護解除後の生活にあわせた支援が行われているかを確認します。特に、家庭復帰ができない場合には、その理由、今後の生活の見通し、家庭復帰計画の状況などを十分に伝え、子どもが納得できるような、また不安を軽減するための工夫がなされているかを確認してください。 | | | |

##### 保護解除に向けて、子どもに対して必要な支援を行っているか

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| **[No.6]　保護解除に向けて、子どもに対して必要な支援を行っているか**  ◆ねらい  一時保護の解除にあたり、一時保護解除後の支援体制等について分かりやすく伝えているかを評価します。 | | | |
|  | | | |
|  | | ［No.6］の評価（s,a,b,c） |  |
|  | | | |
| 判断基準  （✓評価の視点・ポイント） | | | 評価  （○,△,×） |
| 家庭復帰に対する子どもや保護者等の心理状態に配慮しつつ、子どもや保護者等の意見を聴取しながら、復帰時期、復帰後の生活等について検討しているか | | |  |
|  |  | | |
| 子どもが年齢に応じてSOSが出せるよう、エンパワメントを行っているか（幼保職員へのSOS、児童相談所全国ダイヤルの使い方の練習など） | | |  |
|  |  | | |
| 里親委託や施設入所等に移行する子どもには、新たな養育場所に関する情報提供、心のケア、移行の必要性の説明等を行っているか | | |  |
|  |  | | |
| 家庭復帰後も、相談や支援をしていくことを分かりやすく伝えているか | | |  |
|  |  | | |
| その他工夫している点 | | | |
|  | | | |
| ◆評価の留意点  一時保護の解除により、児童相談所等からの支援がなくなるのではないかという心配や不安をもつ子ども少なくありません。  そのため、子どもに安心感を持ってもらえるよう、一時保護解除後にどのような相談や支援をしていくかについて分かりやすく説明されているかを確認します。  また、子どもの年齢に応じ、SOSを出せるようなエンパワメントが行われているかを確認してください。 | | | |

### 外出、通信、面会、行動等に関する制限

##### 外出、通信、面会、行動等は適切に行われているか

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| **[No.7]　外出、通信、面会、行動等は適切に行われているか**  ◆ねらい  外出、通学、通信、面会に関する制限が、子どもの安全の確保が図られ、かつ一時保護の目的が達成できる範囲で、必要最小限とされているか、また権利制限を行うにあたり適切な手続きが行われているかを評価します。 | | | |
|  | | | |
|  | | ［No.7］の評価（s,a,b,c） |  |
|  | | | |
| 判断基準  （✓評価の視点・ポイント） | | | 評価  （○,△,×） |
| 外出、通学、通信、面会に関する制限は、子どもの安全の確保が図られ、かつ一時保護の目的が達成できる範囲で必要最小限となっているか | | |  |
|  | * 子どもの身体の自由を直接的に拘束したり、子どもを一人ずつ鍵をかけた個室におくなどをしていない * 子どもの権利を守るため、弁護士に相談できることを伝えているか | | |
| 外出、通信、面会等に関する制限を行う場合には、子どもの安全確保のため必要である旨を子どもや保護者に説明しているか | | |  |
|  | * 子どもがその制限に不満や不服を言う場合には、なぜ必要なのかを時間をかけて納得が得られるように努めている | | |
| 外出、通信、面会、行動等に関する制限を行う場合には、理由や経過等に関する記録を留めているか | | |  |
|  |  | | |
| 外出、通信、面会、行動等の制限を行っている子どもがいる場合に、必要のない子どもまでもが制限されていないか | | |  |
|  |  | | |
| その他工夫している点 | | | |
|  | | | |
| ◆評価の留意点  閉鎖的環境、開放的環境のいずれにおける保護であっても、子どもの安全確保と権利制限については、常に子どもの利益に配慮してバランスを保ちつつ判断を行う必要があります。  権利制限を行っている場合、その理由と制限の内容が適切かを確認するとともに、制限を行うことについて、子ども等への説明が行われ理解が得られているか、経過等について記録されているか等の手続きが適切に行われているかを確認します。  また、一人の子どものために、必要のない子どもの権利までが制限されていないかについても確認してください。 | | | |

### 被措置児童等虐待防止

##### 被措置児童等の虐待防止に努めるとともに、発生時の対応は適切に行われているか

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| **[No.8]　被措置児童等の虐待防止に努めるとともに、発生時の対応は適切に行われているか**  ◆ねらい  一時保護の職員等による子どもへの虐待防止の取組みがなされているか、また虐待事例がある場合には、その対応が適切に行われたかを評価します。 | | | |
|  | | | |
|  | | ［No.8］の評価（s,a,b,c） |  |
|  | | | |
| 判断基準  （✓評価の視点・ポイント） | | | 評価  （○,△,×） |
| 被措置児童等虐待があった場合に、すぐに職員に相談できること、児童相談所等に通告・届出ができることについて、あらかじめ子どもに説明しているか | | |  |
|  |  | | |
| 万一、子どもの権利が侵害される事態が生じたときの対応は適切に行われているか | | |  |
|  | * 子どもの権利が侵害される事態が生じたときの対応は明確になっている * 子どもの心のケア等が行える体制が構築されている（職員配置、関係機関連携等） * 事例がある場合は、適切な対応が行われていた（心のケア、調査、再発防止策） | | |
| 被措置児童等虐待の防止に努める取組等を行っているか | | |  |
|  | * 職員研修等が実施されている * 虐待防止のための組織運営面での取組みが行われている | | |
| その他工夫している点 | | | |
|  | | | |
| ◆評価の留意点  一時保護される子どもは、不安や緊張の高い状態であることも多く、そういった子どもが信頼を寄せるべき立場の職員が保護中の子どもに対して虐待を行うということは、子どもの心身をさらに傷つけ、大人への不信感につながるものであり、絶対にあってはならないものです。  まずは、虐待防止のための職員研修の実施や組織運営面での取組み状況について確認をします。  仮に、職員による身体的苦痛や人格を辱める、暴言等精神的な苦痛を与える行為、子どもの権利が侵害される事態の発生例があった場合には、子どもやその保護者への対応を含め、適切な対応が行われていたかを確認するとともに、発生要因の分析、支援体制の見直し等を含めた適切な再発防止策が講じられているかを確認してください。 | | | |

### 子ども同士の暴力等の防止

##### 子ども同士での暴力等の防止に努めるとともに、発生時の対応は適切に行われているか

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| **[No.9]　子ども同士での暴力等の防止に努めるとともに、発生時の対応は適切に行われているか**  ◆ねらい  子ども同士での暴力やいじめなどの権利侵害の発生防止の取組みがなされているか、また発生事例がある場合には、その対応が適切に行われたかを評価します。 | | | |
|  | | | |
|  | | ［No.9］の評価（s,a,b,c） |  |
|  | | | |
| 判断基準  （✓評価の視点・ポイント） | | | 評価  （○,△,×） |
| 子ども同士での権利侵害がある場合は、すぐに職員に相談することをあらかじめ伝えているか | | |  |
|  |  | | |
| 子ども同士での権利侵害がある場合に、すぐに対応できる体制を確保しているか | | |  |
|  | * 子ども同士での権利侵害があった場合の対応が明確になっている | | |
| 子ども同士での権利侵害など、子どもの健全な発達を阻害する事態の発生防止のための取組を行っているか | | |  |
|  | * 職員研修等が実施されている * 虐待防止のための組織運営面での取組みが行われている | | |
| その他工夫している点 | | | |
|  | | | |
| ◆評価の留意点  一時保護所に入所する子どもは、その年齢も、また一時保護を要する背景も虐待や非行など様々なため、子ども同士の暴力やいじめなど、子どもの健全な発達を阻害する事態の防止に日頃から留意しなくてはなりません。  子ども同士での暴力等の防止のために、職員の観察力の向上や気づいたときの対応方法などの職員研修等の実施状況について確認します。  また、暴力等があった場合に、すぐに職員に相談することを伝えるなど、子どもに対する説明等も適切に行われているかを確認する必要があります。 | | | |

### 子どもの権利等に関する特別な配慮

#### 思想や信教の自由の保障

##### 思想や信教の自由の保障が適切に行われているか

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| **[No.10]　思想や信教の自由の保障が適切に行われているか**  ◆ねらい  文化、慣習、宗教等による生活上の違いなどを尊重した対応が行われているかを評価します。 | | | |
|  | | | |
|  | | ［No.10］の評価（s,a,b,c） |  |
|  | | | |
| 判断基準  （✓評価の視点・ポイント） | | | 評価  （○,△,×） |
| 文化、慣習、宗教等による食習慣や日課の違いなどを尊重した対応をしているか | | |  |
|  | * 特別な配慮を必要とするかの把握を行う仕組みがある * 特別な配慮を必要とする子どもの受け入れている場合に、適切な対応が行われている | | |
| その他工夫している点 | | | |
|  | | | |
| ◆評価の留意点  文化、慣習、宗教等によって、食習慣や日課などに違いがある可能性があります。こうした子どもを一時保護するにあたり、特別な配慮を必要とするかが把握されているかを確認します。  また、配慮が必要な子どもを受け入れている場合には、適切な対応が行われているかを確認してください。 | | | |

#### 性的なアイデンティティへの配慮

##### 性的なアイデンティティへの配慮が適切に行われているか

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| **[No.11]　性的なアイデンティティへの配慮が適切に行われているか**  ◆ねらい  LGBT等、性的指向または性自認に配慮が必要な子どもの受け入れにあたって、適切な対応が行われているかを評価します。 | | | |
|  | | | |
|  | | ［No.11］の評価（s,a,b,c） |  |
|  | | | |
| 判断基準  （✓評価の視点・ポイント） | | | 評価  （○,△,×） |
| 性的なアイデンティティに配慮した対応をしているか | | |  |
|  | * 性的なアイデンティティへの配慮を必要とする子どもの受入について、どのような対応を行うかがあらかじめ検討されている。   （居室、トイレ、入浴、準備する衣類、他児との関係性） | | |
| その他工夫している点 | | | |
|  | | | |
| ◆評価の留意点  LGBT等については、子どもが自ら知らせず、一時保護されてから気づく場合もあることも含めて、十分な配慮が必要です。  そのような子どもの受入れにあたり、どのような対応を行うかについてあらかじめ検討されているかを確認します。特に、男女の居住空間が分かれているような施設については留意が必要です。 | | | |

## 養育・支援の基本

### 子どもとの関わり

#### 安全感・安心感を与えるケア

##### 子どもとの関わりにおいて、子どもが安全感・安心感・信頼感を持てる養育・支援を行っているか

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| **[No.12]　子どもとの関わりにおいて、子どもが安全感・安心感・信頼感を持てる養育・支援を行っているか**  ◆ねらい  子どもが安全感、安心感、信頼感を持てるようにするために行っている取組みについて評価します。 | | | |
|  | | | |
|  | | ［No.12］の評価（s,a,b,c） |  |
|  | | | |
| 判断基準  （✓評価の視点・ポイント） | | | 評価  （○,△,×） |
| 一時保護の受入れ可否を子どもの安全の視点で判断しているか | | |  |
|  |  | | |
| 子どもが安全感や安心感、信頼感を持てる保護や療育を行っているか | | |  |
|  | * 子どもにとって安心できる距離で関わっている * 「子ども自身がここでは守られて安心できる」と感じられるよう配慮している（職員が常に見える場所にいる、いつでも子どもが職員に話しかけられる状態とする、適切に目配りする等） * 気持ちが不安定な子どもには、子どもが愛着を感じる、安心感につながるものを手元に置くなどの配慮を行っている | | |
| 全ての子どもが被害を受けている、コミュニケーションに問題がある可能性を考慮した、通常以上に配慮したケアが行えているか | | |  |
|  | * 子どもの尊厳を大切にし、過酷な環境を生き抜いてきたことに対して共感的に理解している * 子どもの大人に対する怒りを受け止める対応を行っている * 子どもの気持ちに寄り添い、不安や怒り、悲しみについて、共感的に受け止められたと実感できるように傾聴している | | |
| プライバシーに配慮すべき場面では、適切な対応を行っているか | | |  |
|  | * プライバシーの配慮に関する職員研修等の取組みが行われている * 子どものケアにおいて、プライバシーに配慮した対応が行われている | | |
| その他工夫している点 | | | |
|  | | | |
| ◆評価の留意点  一時保護の大原則は、生活を通して子どもの安全を確保して安心感を与えるケアを行うことです。そのため、子どもにとって安心できる距離で関わること、子どもの尊厳を大切にし、共感し、理解し、受け止めることが必要となります。  子どもが安全感、安心感、信頼感を持てるよう、どのような配慮、取組みが行われているかについて、ヒアリングや職員研修の内容等から確認します。また、保護開始時には子どもの全てが明らかになっていない可能性があることを踏まえ、どのような配慮がなされているかを確認してください。  あわせて、子どものプライバシーへの配慮についての職員意識や取組状況も確認してください。 | | | |

#### エンパワメントにつながるケア

##### 子どものエンパワメントにつながる養育・支援を行っているか

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| **[No.13]　子どものエンパワメントにつながる養育・支援を行っているか**  ◆ねらい  一時保護中の子どもとの関わりにおいて、個々の職員が子どものエンパワメントにつながる養育や支援を意識して行っているか、一時保護所全体としてそれを目的とした取組みがなされているかを評価します。 | | | |
|  | | | |
|  | | ［No.13］の評価（s,a,b,c） |  |
|  | | | |
| 判断基準  （✓評価の視点・ポイント） | | | 評価  （○,△,×） |
| 「あなたは大切な存在である」ことを言葉・行動でメッセ―ジとして伝えているか | | |  |
|  | * 全体に対して伝えている * 個々の子どもに伝えている | | |
| 表現の機会を多くつくり、それを受け止められる体験を通して、自己表現を促しているか | | |  |
|  |  | | |
| その他工夫している点 | | | |
|  | | | |
| ◆評価の留意点  一時保護につながる子どもたちの中には、自己評価が低く、自尊感情が持てない子どもも少なくありません。また、自分の思いを自分から表現することが少ない子どもが多いのも特徴の１つです。そのため、「あなたは大切な存在である」ことを言葉でも行動でもメッセージとして伝える必要があり、かつ表現の機会をつくり、それが受け止められる体験を通して、自己表現を促すことも必要になります。  一時保護中の子どもとの関わりにおいて、職員がその必要性を理解しているか、また具体的にどのような行動、工夫をしているかについて、ヒアリング等で確認します。 | | | |

### 子どもからの聞き取り等に関する配慮

##### 子どもからの聞き取り等にあたり、子どもへの配慮や説明などが適切に行われているか

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| **[No.14]　子どもからの聞き取り等にあたり、子どもへの配慮や説明などが適切に行われているか**  ◆ねらい  生育歴等について子どもから聞き取りを行う場合において、子どもの人権等に十分に配慮した説明や対応が行われているかを評価します。 | | | |
|  | | | |
|  | | ［No.14］の評価（s,a,b,c） |  |
|  | | | |
| 判断基準  （✓評価の視点・ポイント） | | | 評価  （○,△,×） |
| 子どもからの聞き取りにあたっては、子どもの人権等への配慮を十分に行っているか | | |  |
|  | * 子どもからの生活歴の聞き取りを行うにあたっては、誰がいつ、どのように行うか等を検討したうえで実施している * 子どもからの聴取は、子どものペースを尊重した非誘導的な受け答え、自発的な話の聞き取りによって進められている * 警察からの事情聴取、現場検証等にあたっては、子どもの感情を代弁し、心の傷を広げないような配慮・依頼をしている * 聞き取りを行う職員が、必要な技法を習得している * 職員が、聞き取りの技法を学ぶ機会を提供している | | |
| 子どもから聞いた話を、職員間及び担当児童福祉司と共有することを説明しているか | | |  |
|  |  | | |
| その他工夫している点 | | | |
|  | | | |
| ◆評価の留意点  子ども自身から生育歴や家族歴を聞きとることで、より重要な情報を得られることがあります。  こうした聞き取りが行われているか、また聞き取りを行うにあたり、誰がいつ、どのように行うか等が十分に検討されているかを確認します。  聞き取りにおいては、子どものペースを尊重した非誘導的な受け答えによって進められることが基本であり、やりとりにおける応答には細心の注意を払う必要があります。聞き取りを行う際の配慮や方法においてどのような工夫がなされているかを確認するとともに、聞き取りを担当する職員がその技法を習得しているか、学ぶ機会が提供されているか等を確認してください。  また、子どもから聞いた話を職員間及び担当児童福祉司と共有する際には、その旨を事前に子どもに説明しているかの確認も必要です。 | | | |

# 一時保護の環境及び体制整備

## 適切な施設・環境整備

### 設備運営基準の遵守

##### 一時保護所としての設備運営基準は遵守されているか

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| **[No.15]　一時保護所としての設備運営基準は遵守されているか**  ◆ねらい  一時保護所として必要な諸室や設備が整備されているかを評価します。 | | | |
|  | | | |
|  | | ［No.15］の評価（s,a,b,c） |  |
|  | | | |
| 判断基準  （✓評価の視点・ポイント） | | | 評価  （○,△,×） |
| 子どもの保護ができる場が用意できているか | | |  |
|  | * 定員を超えても居室以外で寝起きさせない | | |
| 開放的環境における対応が可能となっているか（一時保護所内での開放的環境の確保・委託一時保護の活用等） | | |  |
|  |  | | |
| 一時保護所の設備及び運営基準は、児童養護施設について定める設備運営基準を遵守しているか（適切な監査等を受けているか） | | |  |
|  | * 一人あたりの居室面積が基準以上となっている * 居室定員の上限を超えていない * 子どもの年齢に応じ、男子と女子の居室が分かれている | | |
| プライバシーに配慮した居室空間が提供されているか | | |  |
|  |  | | |
| その他工夫している点 | | | |
|  | | | |
| ◆評価の留意点  一時保護所は、児童相談所に付設もしくは児童相談所と密接な連携が保てる範囲内に設置されていなくてはなりません。また、その設備及び運営については児童養護施設の設備運営基準を準用することとなっています。  一時保護所内に必要な諸室が設けられているか、居室の定員数や面積が適切か、子どもの年齢等に応じ男子と女子の居室が別になっているか等について、同基準第41条の「設備の基準」が遵守されているかについて確認します。  その他、プライバシーに配慮された居室空間になっているか、開放的環境が確保されているかなどについても確認してください。 | | | |

### 個別性の尊重

##### 一時保護所は、個別性が尊重される環境となっているか

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| **[No.16]　一時保護所は、個別性が尊重される環境となっているか**  ◆ねらい  施設・設備や生活上のルールにおいて、子ども一人ひとりの個別性を尊重した生活を送ることができるよう配慮されているかを評価します。 | | | |
|  | | | |
|  | | ［No.16］の評価（s,a,b,c） |  |
|  | | | |
| 判断基準  （✓評価の視点・ポイント） | | | 評価  （○,△,×） |
| 束縛感がなく、個別性が尊重される環境となっているか | | |  |
|  | * 子どもが個人として生活の確保が場面ごとに選択できるような体制となっている（個室の整備や活用） * 個室対応を基本とする職員配置及び環境整備を行っている * 個別日課を認める理念と体制が整っている * むりやり頭髪の色を変えさせていない * 私服の着用を適宜認めている | | |
| 必要な子どもに対し、個室を提供できる環境があるか | | |  |
|  |  | | |
| あたたかい雰囲気であり、安心して生活できる体制が確保されているか | | |  |
|  | * 子どもが落ち着いて生活できるための施設、設備、日常の過ごし方や活動内容の工夫がされている | | |
| その他工夫している点 | | | |
|  | | | |
| ◆評価の留意点  一時保護を行う場は、代替養育の場という性格も有することから、家庭的環境等の中で、束縛感を与えず、子どもの権利が尊重され安心して、落ち着いて生活できるよう、個別性が尊重された施設、設備、日常生活の過ごし方や活動内容であることが求められます。  そのため、一時保護を行う場が、個別的な対応ができるようになっているか、個室の整備やその活用が行われているか、子ども一人ひとりが生活の場面ごとに選択できるような環境となっているかを確認します。また、日課や私服や頭髪の色等についても、子ども一人ひとりの志向を尊重した対応が行えているかを確認してください。 | | | |

### 生活環境の整備

##### 一時保護所内の生活環境が適切に整備されているか

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| **[No.17]　一時保護所内の生活環境が適切に整備されているか**  ◆ねらい  子どもの生活環境として、適切な状態が保たれているかを評価します。 | | | |
|  | | | |
|  | | ［No.17］の評価（s,a,b,c） |  |
|  | | | |
| 判断基準  （✓評価の視点・ポイント） | | | 評価  （○,△,×） |
| 日常的に清掃等がされ、衛生的な環境が維持されているか | | |  |
|  | * 毎日清掃している * 汚れが目立ったときに、美化に務めている * 定期的に害虫駆除等の対策をしている * 音、気温、湿度、におい等環境面の評価を定期的に行っている * 不適切な点があった時に改善している | | |
| 家庭的な環境となるような工夫がされているか | | |  |
|  | * 身体的にリラックスできる空間や設備がある * みんなが集まるリビングがある * 学習空間が整備されている | | |
| 生活環境として必要な設備や什器備品等が整備されている | | |  |
|  |  | | |
| 必要な修繕等が行われているか | | |  |
|  | * 壁の破損、窓の破損など危険箇所がない * 破損した場合、できるだけ早期に修繕できる体制・予算が確保されている | | |
| 生活場面の中で、どんな外風景が見えるのか | | |  |
|  | * 閉塞感がない * 目隠しに植栽等を利用している | | |
| 外部からの視線に対する配慮が行われている | | |  |
|  |  | | |
| その他工夫している点 | | | |
|  | | | |

|  |
| --- |
|  |
| ◆評価の留意点  子どもの居室をはじめとした一時保護所内の各諸室が、衛生的に保たれているか、修繕等は追われているか、生活の場として必要な設備や什器備品等が整備されているかを確認します。  また、家庭的な環境となるような雰囲気づくりに努めるとともに、閉塞感がないか、外部からの視線に対する配慮があるかなど、一時保護所として適切な環境を確保するための配慮・工夫が行われているかを確認してください。 |

## 管理者の責務

##### 管理者としての役割が明確になっており、その責務が全うされているか

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| **[No.18]　管理者としての役割が明確になっており、その責務が全うされているか**  ◆ねらい  管理者が、一時保護所の管理・運営をリードする立場として、職員に対して自らの役割と責任を明らかにし、それを実行できているかを評価します。 | | | |
|  | | | |
|  | | ［No.18］の評価（s,a,b,c） |  |
|  | | | |
| 判断基準  （✓評価の視点・ポイント） | | | 評価  （○,△,×） |
| 管理者が一時保護所の管理・運営をリードするための環境が整っているか | | |  |
|  | * 管理者の役割と責任が明確になっている * 管理者の役割と責任が、職員に周知されている * 職員との信頼関係ができている | | |
| 管理者のリーダーシップのもとでの管理運営が行われているか | | |  |
|  | * 一時保護の受入可否の判断において、管理者としての役割が実行されている * リスクマネジメントの取組みにおいて、管理者としての役割が実行されている | | |
| スーパーバイズができているか | | |  |
|  |  | | |
| その他工夫している点 | | | |
|  | | | |
| ◆評価の留意点  管理者は、一時保護所の運営管理において、理念や基本方針等を踏まえた取組みを具体化しつつ、質の高い養育・支援の実現に役割と責任を果たすことが求められます。  管理者が、一時保護所全体を管理し、リードする立場として、職員に対して自らの役割と責任を明らかにすることは、職員との信頼関係を築くために欠かすことができません。質の高い養育・支援の実施は、管理者の力だけで実現できるものではなく、職員との信頼関係のもとにリーダーシップを発揮することが必要であり、それが管理者の要件といえます。  管理者の役割と責任が明確化され、職員に周知されているかを確認します。  そして、一時保護の受入可否の判断や、リスクマネジメントの取組みなどの具体的な場面において、その役割が実行できているかを確認してください。  一時保護所において、スーパーバイズが行えているかが重要です。 | | | |

## 適切な職員体制

### 設備運営基準の遵守

##### 一時保護所として、必要な適切な職員体制が確保されているか

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| **[No.19]　一時保護所として、必要な適切な職員体制が確保されているか**  ◆ねらい  一時保護所として必要な職員が配置されているかを評価します。 | | | |
|  | | | |
|  | | ［No.19］の評価（s,a,b,c） |  |
|  | | | |
| 判断基準  （✓評価の視点・ポイント） | | | 評価  （○,△,×） |
| 職員配置は、児童養護施設について定める設備運営基準以上であるか | | |  |
|  | * 児童指導員、嘱託医、保育士が必要数配置されている * 定員数や受け入れをする子どもの年齢や状況に応じ、必要な職員が配置されている（個別対応職員、看護師、心理療法担当職員など） | | |
| その他工夫している点 | | | |
|  | | | |
| ◆評価の留意点  一時保護所における職員配置は、児童養護施設について定める設備運営基準と同等以上することが望ましいとされています。  児童指導員、嘱託医、保育士のほか、定員数や受け入れをする子どもの年齢や状況に応じ、個別対応職員、看護師、心理療法担当職員などの必要な職員が配置されているかを確認してください。 | | | |

### 職員の適正配置

##### 各職種の役割や求められる専門性・能力を考慮した人員配置が行われているか

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | | | |
|  | | | |
|  | | ［No.20］の評価（s,a,b,c） |  |
|  | | | |
| 判断基準  （✓評価の視点・ポイント） | | | 評価  （○,△,×） |
| 各職種の役割や権限、責任が明確になっているか  **[No.20]　各職種の役割や求められる専門性・能力を考慮した人員配置が行われているか**  ◆ねらい  個々の職種の役割に応じた職員が配置されているかを評価します。 | | |  |
|  | * 直接処遇職員と間接処遇職員（調理員など）の役割が明確されているか * 保健師・看護師の役割が明確にされているか * 心理士・学習支援員の役割が明確にされているか | | |
| 専門性を要する役割には、必要な能力等を有する職員が配置されているか | | |  |
|  | * 職員は、子どもの抱えた課題と強みを総合的にアセスメントしていく能力、専門性をもっているか * 子どもからの聴取を行う職員は、面接技法の研修等受けているか * 心理職員の条件 * SVが可能な専門的知識と技術を有する職員が配置されているか（経験としてケアワークと相談援助または心理支援の両方の経験、また専門的知識としては社会福祉士・臨床心理士の有資格者） | | |
| 相談援助活動の一貫性を保つよう努めているか | | |  |
|  | * 個々の子どもの担当者が決められている * 適切にスーパービジョンがなされている * 相談援助と心理的アセスメント、ケアワークの情報共有が適切になされている | | |
| その他工夫している点 | | | |
|  | | | |
| ◆評価の留意点  一時保護される子どもは、年齢や背景がさまざまであり、必要とする養育・支援が異なることから、一時保護には多様な職種のかかわりが必要です。また、子どもとのかかわりにおいては、専門的な知識や技法が求められます。  一時保護にかかわる職員の各々の役割が明確になっているか、その役割に必要な資格や経験を有する職員が配置されているかを確認します。  また、個々の子どもの担当者が決められているかなど、相談援助の一貫性を保つための工夫が行われているかについても確認してください。 | | | |

### 情報管理

##### 情報管理が適切に行われているか

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| **[No.21]　情報管理が適切に行われているか**  ◆ねらい  一時保護所で取り扱う個人情報等の管理が日常的に徹底されているかを評価します。 | | | |
|  | | | |
|  | | ［No.21］の評価（s,a,b,c） |  |
|  | | | |
| 判断基準  （✓評価の視点・ポイント） | | | 評価  （○,△,×） |
| 個人情報が適切に取り扱われているか | | |  |
|  | * 個人情報に関わる書類が放置されていない * 個人情報に関わる書類の作成中などに、職員が離席する場合には、書類を隠すなどの配慮が行えている * 個人情報に関わる書類は、日常的に鍵のかかる場所に保管されている * 個人情報の取扱いに関するマニュアル等があるか | | |
| 情報の重要性や機密性を踏まえた管理を行っているか | | |  |
|  | * 個人情報以外の重要性、機密性の高い情報について、職員が認識できている * 重要性、機密性の高い情報について、個人情報と同様に必要な管理・配慮が行えている | | |
| 書類や記録等が適切に管理・更新されているか | | |  |
|  |  | | |
| 子どもに関する情報について、外部機関と共有する必要が生じた場合には、子どもや保護者の同意を得ているか | | |  |
|  |  | | |
| 情報管理に関する職員の理解・周知の取組みを行っているか | | |  |
|  | * 個人情報等の情報管理に関するマニュアル等が策定されている * 個人情報等の情報管理について、職員研修等の取組みが実施されている | | |
| その他工夫している点 | | | |

|  |
| --- |
|  |
| ◆評価の留意点  一時保護所が保持する個人情報は、子どもやその保護者のものまで含めて膨大な量であり、その情報は慎重に取り扱わなくてはなりません。  個人情報に係る書類が、日常的に鍵のかかる場所に保管されているかを確認します。また、施設内において不適切な場所に個人情報の書かれた資料等が放置されていないかどうかを確認してください。  あわせて、個人情報の取扱いに関するマニュアル等があるか、職員への周知が徹底されているかの確認も行う必要があります。 |

### 職員の専門性向上の取組

##### 職員の専門性の向上及び意識共有のための取組が適切に行われているか

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| **[No.22]　職員の専門性の向上及び意識共有のための取組が適切に行われているか**  ◆ねらい  職員の専門性向上や意識共有のための取組みが、目標に基づき計画的かつ体系的に実行されているかを確認します。 | | | |
|  | | | |
|  | | ［No.22］の評価（s,a,b,c） |  |
|  | | | |
| 判断基準  （✓評価の視点・ポイント） | | | 評価  （○,△,×） |
| 一時保護に従事するものとして、守るべき法・規範・倫理等を全職員が理解するための取組が行われているか | | |  |
|  | * 児童福祉法の目的、子どもの権利条約等、ガイドラインの内容に即したテーマの研修等が実施されている * 社会福祉士の倫理綱領を学ぶ機会がもたれている | | |
| 職員の専門性の向上を図るための計画的な取組が行われているか | | |  |
|  | * 計画的な研修が行われている（単発での研修となっていない） * 研修の計画は、養育・支援の質の向上のために設定した目標や事業計画との整合性がとられている * 所内研修の他、派遣研修も実施されている（派遣研修のための予算が確保されている） * 研修で現場を離れる職員がいてもシフトが回せるような体制がとられている | | |
| 職員一人ひとりの育成に向けた取組が実施されているか | | |  |
|  | * 職員ごとの目標設定や育成計画が策定されている * 職員のレベルに応じた達成水準が定められている * 個人ごとの「研修実績ファイル」がつくられ、研修歴がわかるようになっている | | |
| 職員間での指導・育成を行う仕組みがあるか | | |  |
|  | * OJTを意識的に行っている * 新任・転任者に重点的にOJTを行う職員を決めるなどの工夫がなされている | | |
| その他工夫している点 | | | |

|  |
| --- |
|  |
| ◆評価の留意点  職員への教育・研修は、計画的な実施が必要であり、その内容は、養育・支援の質の向上のために設定した目標と、その目標達成に向けた事業計画と整合していることが必要です。また、具体的な知識、技術の内容・水準や専門資格の取得といった点から、各研修の位置づけ等が明確になった計画であることが求められています。  職員の専門性向上や意識共有に関する取組みについて、具体的な目標があるか、それと整合性が確保された体系的な研修等の計画となっているか、単発での研修開催や外部研修への参加となっていないかを確認します。また、研修等の内容には、一時保護ガイドラインの内容を踏まえたテーマが設定されているかを確認します。  加えて、職員一人ひとりの育成に向けた、目標設定や育成計画等の仕組みがあるかも重要です。 |

##### 職員間での情報共有・引継等が適切に行われているか

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| **[No.23]　職員間での情報共有・引継等が適切に行われているか**  ◆ねらい  日常的また定期的に職員間で情報の共有化を図るための仕組みについて評価します。 | | | |
|  | | | |
|  | | ［No.23］の評価（s,a,b,c） |  |
|  | | | |
| 判断基準  （✓評価の視点・ポイント） | | | 評価  （○,△,×） |
| 職員間での情報共有や引継等の仕組みがあるか | | |  |
|  | * 申し送りや申し送りノートの活用など、日々の情報共有を行う仕組みがある * 職員間で情報共有するための、定期的な会議開催などの仕組みがある * 申し送りや会議などは、できるだけ多くの職員が参加できるよう、時間帯や所要時間などに配慮されている | | |
| 職員間で共有・引継する情報の内容は適切か | | |  |
|  | * 情報共有の仕組みにおいて、共有・引継する情報が明確になっている * 必要な情報が共有されている | | |
| その他工夫している点 | | | |
|  | | | |
| ◆評価の留意点  一時保護所は、シフトでの勤務体制となるため、職員間の情報共有の不徹底による支障が発生しないよう、職員間での情報共有の工夫が必要となります。  日々の申し送りなどの情報共有の方法や、記録の内容など、どのような仕組みにより情報共有が行われているか、必要な情報が共有されているかを確認します。  また、日々の引継以外に、職員間で情報共有するための会議等が定期的に開催されているか、その会議を効率的、効果的に行うために時間帯や内容、できるだけ多くの職員が参加できるようにするための工夫についても確認してください。 | | | |

### 児童福祉司との連携

##### 児童福祉司との連携が適切に行われているか

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| **[No.24]　児童福祉司との連携が適切に行われているか**  ◆ねらい  一時保護にあたり、必要な場面において児童相談所の児童福祉司との連携が十分に行われているかを評価します。 | | | |
|  | | | |
|  | | ［No.24］の評価（s,a,b,c） |  |
|  | | | |
| 判断基準  （✓評価の視点・ポイント） | | | 評価  （○,△,×） |
| 一時保護所は、児童福祉司と密接な連携が保てる範囲に設置されているか | | |  |
|  | * 一時保護所は、付設または一定範囲内に設置されている | | |
| 入退所時や入所中の調査、診断、支援等について、児童福祉司・児童心理司やその他の各部門と十分な連携を図っているか | | |  |
|  | * 入退所時や入所中の調査、診断、支援等について、他各部門との情報共有を行う仕組みがある * 追加確認等が必要な場合に、児童福祉司等に必要な情報を求められる仕組みがある | | |
| その他工夫している点 | | | |
|  | | | |
| ◆評価の留意点  一時保護所における一時保護業務は児童相談所の一時保護部門が担当しますが、入退所時や入所中の調査、診断、支援等については、他の各部門との十分な連携のもとで行う必要があります。  児童福祉司や児童心理司などとの連携がどのように行われているか、入退所時及び入所中の各場面における連携状況について確認します。 | | | |

### 職場環境

##### 職場環境としての法令遵守や環境改善に取組んでいるか

**[No.25]　職場環境としての法令遵守や環境改善に取組んでいるか**

◆ねらい

職員の就業状況や意向を定期的に把握し、働きやすい職場づくりに取り組んでいるかを評価します。

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | | | |
|  | | | |
|  | | ［No.25］の評価（s,a,b,c） |  |
|  | | | |
| 判断基準  （✓評価の視点・ポイント） | | | 評価  （○,△,×） |
| 適正な就業状況が確保されているか | | |  |
|  | * 労務管理体制が構築されている * 時間外労働や休暇取得などが適切に行われている | | |
| 職員が働きやすい職場環境づくりの取組みがなされているか | | |  |
|  | * メンタルヘルスに関する取組みが行われている * ハラスメントの防止策・対応策などの取組みが行われている * 希望があれば、職員が相談できる体制がある | | |
| 福利厚生施設の充実に取組んでいるか | | |  |
|  |  | | |
| その他工夫している点 | | | |
|  | | | |
| ◆評価の留意点  養育・支援の内容を充実させるためには、職員が常に仕事に対して意識的に望めるような環境を整えること、すなわち働きやすい職場づくりに取組むことが求められます。  職員の心身の健康と安全の確保、ワークライフバランス（仕事と生活の両立）に配慮した職場環境づくりがなされているかを確認します。  職員の心身の健康と安全の確保については、メンタルヘルスへの対応や、ハラスメントの防止策と対応策、希望があれば、職員が相談できるような体制が確保されているかを確認してください。また、ワークライフバランスについては、時間外労働や休暇取得などの労務管理体制とその状況を確認します。 | | | |

## 関係機関との連携

### 医療機関との連携

##### 医療機関との連携が適切に行われているか

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| **[No.26]　医療機関との連携が適切に行われているか**  ◆ねらい  必要な場面において医療機関のかかわりが適切に行われているかを評価します。 | | | |
|  | | | |
|  | | ［No.26］の評価（s,a,b,c） |  |
|  | | | |
| 判断基準  （✓評価の視点・ポイント） | | | 評価  （○,△,×） |
| 必要な場面で、医療機関からの協力がえられているか | | |  |
|  | * 子どもの健康管理において、医療機関が必要な場面でかかわっている * 治療的ケアを必要とする場合に、医療機関からの協力を得られている | | |
| 子どもの状況に応じ、児童福祉司や生活支援担当者、児童心理司、医師などのチームケアを行える体制があるか | | |  |
|  | * 医療的な面での支援等が必要な子どもについて、医療機関がかかわるチームケアの体制が構築されている * 必要性を感じた職員が必要なときに「提案」ができる仕組みがある | | |
| その他工夫している点 | | | |
|  | | | |
| ◆評価の留意点  子どもの健康管理や治療的ケアなどを必要とする場合に、医療機関からの協力が得られているかを確認します。また、特別な配慮を要する子どもの場合など、チームケア体制が必要な場合の医療機関のかかわりについても確認してください。 | | | |

### 警察署との連携

##### 警察署との連携が適切に行われているか

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| **[No.27]　警察署との連携が適切に行われているか**  ◆ねらい  緊急時の協力要請や、子どもが事情聴取を受ける際の依頼など、警察署との連携体制について評価します。 | | | |
|  | | | |
|  | | ［No.27］の評価（s,a,b,c） |  |
|  | | | |
| 判断基準  （✓評価の視点・ポイント） | | | 評価  （○,△,×） |
| 警察署との連携が日頃から行われているか | | |  |
|  | * 警察に協力を要請すべき場面や、連絡先等に関するマニュアルが整備されている * 無断外出発生時の警察との連携についての対応マニュアル等がある | | |
| 警察の面接等にあたっては、子どもの成長・発達状況や心身の負担に十分に配慮するよう警察と十分に調整を行っているか | | |  |
|  | * 面接等の要請があった場合には、子どもの状況に応じて面接を行う時間帯や環境の配慮などについて、警察、検察に必要な協力依頼を行っている | | |
| 子どもに対し、警察が面接等を行う場合には、可能な限り協力しているか | | |  |
|  | * 子どもが拒んだ場合に、子どものアドボケイトを行っている | | |
| その他工夫している点 | | | |
|  | | | |
| ◆評価の留意点  無断外出や緊急事態が発生した場合に、迅速、適切な協力が得られるよう、日頃から連携を図っておくことが必要です。警察に協力要請をすべき場面や、その際の連絡先等が職員間で共有されているかについて、マニュアル等で確認します。  また、一時保護中の子どもが、警察からの事情聴取等を受ける場合があります。その際には、子どもの感情を代弁し、心の傷を広げないような配慮が必要となります。事情聴取の場合に子どもへの配慮として警察、検察に必要な協力依頼を行っているかについて、その内容とともに確認してください。 | | | |

### 施設・里親等との連携

##### 施設や里親等との連携が図られているか

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| **[No.28]　施設や里親等との連携が図られているか**  ◆ねらい  一時保護の解除に向け、施設や里親等との連携により、子どもが安心して新たな生活に移れるような取組みがなされているかを評価します。 | | | |
|  | | | |
|  | | ［No.28］の評価（s,a,b,c） |  |
|  | | | |
| 判断基準  （✓評価の視点・ポイント） | | | 評価  （○,△,×） |
| 移行前に、子どもが安心感を持てるように配慮しているか | | |  |
|  | * 移行する施設や里親との情報の共有が行われている * 子どもに対して、施設や里親に関する説明や情報提供を丁寧に行っている * 子どもと施設や里親との交流を深める、関係調整を図る機会を設けている | | |
| その他工夫している点 | | | |
|  | | | |
| ◆評価の留意点  子どもが家庭に帰れず、里親や施設等に措置する場合には、子どもが安心感を持てるよう、子どもと里親や施設との交流を深めながら、子どもの受入体制を整えることが求められます。  受入先となる施設や里親を職員や子どもが訪問するなど、丁寧に関係調整を図るための配慮・工夫が行われているかを確認します。  また、常に連携・協働できるような関係づくりや、情報共有などが行われているかを確認してください。 | | | |

### その他の機関との連携

##### 子どもの養育・支援を適切に行うために、必要な関係機関との連携が適宜行われているか

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| **[No.29] 子どもの養育・支援を適切に行うために、必要な関係機関との連携が適宜行われているか**  ◆ねらい  一時保護所において子どもの状況にあったよりよい養育・支援を行うこと、一時保護解除後の支援の継続性を確保するために、関係機関等との連携体制や、連携方法が適切に行われているかを評価します。 | | | |
|  | | | |
|  | | ［No.29］の評価（s,a,b,c） |  |
|  | | | |
| 判断基準  （✓評価の視点・ポイント） | | | 評価  （○,△,×） |
| 必要な関係機関との連携を行う仕組みがある | | |  |
|  | * 必要な関係機関との連携を行う仕組みがある   （定期的な会議開催、情報共有等の仕組みなど）   * 子どもの養育・支援を適切に行うために必要な関係機関を職員があげることができる | | |
| 関係機関とのネットワークを有効に活用できている | | |  |
|  | * 各関係機関との連携の内容や方法が明確になっている * その内容に基づき、連携が行われている * 情報共有等においては、適切な手続きや範囲の中で行われている * 触法の子どもの面会への付き添いができている | | |
| その他工夫している点 | | | |
|  | | | |
| ◆評価の留意点  子ども一人ひとりにあったよりよい養育・支援を実施するためには、様々な関係機関等との連携が必要となります。医療機関や警察署、施設や里親以外についても子どもへの養育・支援の質の向上や一時保護解除後の継続性等を確保するために連携が必要な機関や団体との連携が図られているかを確認します。  どのような関係機関等と連携しているか、連携の内容や方法等、そのネットワークを有効に活用できているかを確認します。また、情報共有については、適切な手続きや範囲の中で行われているかも確認してください。 | | | |

# 一時保護所の運営

## 一時保護の目的

##### 一時保護の目的に即した理念・基本方針となっているか

**[No.30]　一時保護の目的に即した理念・基本方針となっているか**

◆ねらい

一時保護を行うにあたっての、理念ならびに基本方針が策定されているか、また職員への周知が図られているかを評価します。

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | | | |
|  | | | |
|  | | ［No.30］の評価（s,a,b,c） |  |
|  | | | |
| 判断基準  （✓評価の視点・ポイント） | | | 評価  （○,△,×） |
| 理念・基本方針が職員に周知されているか | | |  |
|  | * 掲示や配布などにより、理念・基本方針の職員への周知が図られている | | |
| 一時保護の目的（安全確保・アセスメント）に即した理念・基本方針となっているか | | |  |
|  | * 理念・基本方針が策定されている * 理念・基本方針の内容は、一時保護の目的に合致したものとなっている | | |
| その他工夫している点 | | | |
|  | | | |
| ◆評価の留意点  一時保護の目的は、子どもの安全を迅速に確保し適切な保護を図るため、又は子どもの心身の状況、その置かれている環境その他の状況を把握することです。  理念は施設運営や養育・支援の拠り所であり、基本の考え方です。また、基本方針は、理念を職員等の行動基準（行動規範）としてより具体的な指針とするものであり、基本方針が明確にされていることにより、職員は自らの業務に対する意識づけや子どもへの接し方、養育・支援への具体的な取組みを合目的的に行うことができるようになります。  理念、基本方針を策定しているか、その内容は子どもの権利擁護等への姿勢など一時保護の目的に合致したものであり、施設の使命や役割を反映した理念、これにもとづく養育・支援に関する基本方針が適切に明文化されているかを確認します。  また、理念や基本方針が職員に対して十分に周知されるような取組みが行われているかを確認してください。 | | | |

## 一時保護所の運営計画等の策定

##### 一時保護所の年度単位での事業計画の策定や目標設定を行っているか

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| **[No.31]　一時保護所の年度単位での事業計画の策定や目標設定を行っているか**  ◆ねらい  単年度における事業内容が具体的に示されているか、またその計画に基づく取組みが実行されているかを評価します。 | | | |
|  | | | |
|  | | ［No.31］の評価（s,a,b,c） |  |
|  | | | |
| 判断基準  （✓評価の視点・ポイント） | | | 評価  （○,△,×） |
| 事業計画が策定されているか | | |  |
|  | * 活動・行事などが組み込まれた事業計画が策定されている * 事業計画には、活動・行事以外にも、必要な事業内容が具体的に示されている | | |
| 事業計画に基づく取組みが実施されているか | | |  |
|  |  | | |
| 事業計画の策定と評価、見直しの仕組みがあるか | | |  |
|  | * 事業計画の策定と評価、見直しなどの手順が明確になっている * 目標の達成状況や事業計画の実施状況について評価を行っている * 評価を行いやすいよう、できる限り数量化を行うなどの工夫が行われている | | |
| 策定にあたって、児童の意向や職員の意見、地域の福祉ニーズ等を反映できる仕組みがあるか | | |  |
|  |  | | |
| その他工夫している点 | | | |
|  | | | |
| ◆評価の留意点  単年度の目標設定や計画策定は、当該年度における具体的な事業、養育支援等にかかわる内容を着実に実行するために必要となります。  活動や行事等をはじめとした当該年度の事業内容が具体的に示された事業計画があるか、それに基づく取組みが実行されているかを確認します。  また、年度の終了時に目標の達成状況、事業計画の実施状況について評価を行っているかを確認します。評価を行いやすいよう、できる限り数値化等を行う工夫がなされているかも確認してください。  なお、事業計画の策定にあたり、子どもや職員の意向等を反映できる仕組みがあるかも重要になります。 | | | |

## 一時保護の在り方

##### 緊急保護は、適切に行われているか

**[No.32]　緊急保護は、適切に行われているか**

◆ねらい

緊急保護の受入にあたり、子どもへの説明や健康診断を受診させるなどの必要な手続きが行われているか、また閉鎖的環境での保護が必要最小限とするための仕組みがあるかを評価します。

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | | | |
|  | | | |
|  | | ［No.32］の評価（s,a,b,c） |  |
|  | | | |
| 判断基準  （✓評価の視点・ポイント） | | | 評価  （○,△,×） |
| 閉鎖的環境での保護期間が必要最低限となるよう適切に判断する仕組みがあるか | | |  |
|  | * 子どもの身体状況を把握するための健康診断が速やかに行われている * 必要に応じて、専門医の診察を受診させている * 緊急保護後、必要な調査等が速やかに行われている * 閉鎖的環境での保護期間が必要最低限となるよう、必要な検討・判断を行うための検討体制や視点、手続き等が明確になっている * 閉鎖的環境で生活させる際の手続きは公正に行われている | | |
| 緊急保護を行うにあたり、子どもへの説明が行われているか | | |  |
|  | * 子どもに対して必要な説明が行われている * 子どもに対して分かりやすく伝える工夫がされている | | |
| その他工夫している点 | | | |
|  | | | |
| ◆評価の留意点  緊急保護を行うにあたっても、子どもへの説明が必要です。子どもに対して十分な説明が分かりやすく行われているかを確認します。  また、子どもの身体状況を把握するため、速やかに健康診断が行われているか、必要に応じて専門医の診察を受診させているかを確認します。  緊急保護にあたり、子どもの安全を確保するための閉鎖的環境で保護する期間は必要最小限でなくてはならず、子どもの安全確保が可能である場合には速やかに開放的環境に移さなくてはなりません。緊急保護の受入にあたり、閉鎖的環境での保護期間、開放的環境への移行を検討する時期や検討体制、検討の視点等の適切な対応・判断を行う仕組みがあるかを確認してください。 | | | |

## 一時保護所における保護の内容

### 生活面のケア

##### 一時保護所における生活面のケアは、適切に行われているか

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| **[No.33]　一時保護所における生活面のケアは、適切に行われているか**  ◆ねらい  年齢など、個々の子どもの状態にあわせた適切な生活面のケアが行われているかについて評価します。 | | | |
|  | | | |
|  | | ［No.33］の評価（s,a,b,c） |  |
|  | | | |
| 判断基準  （✓評価の視点・ポイント） | | | 評価  （○,△,×） |
| 個々の子どもの状態にあわせて、生活全体の場面にて生活面のケアを行っているか | | |  |
|  | * 子どもの状況に応じ、洗面、排せつ、食事、学習、遊び等、必要な生活面でのケアが行われている * 幼児の保育は健康維持を第一に行っている（例．歯ブラシ、歯磨き粉、固形石鹸を使いまわさない） * 幼児に対する保育は、情緒の安定や基本的生活習慣の習得に十分配慮している * 精神的に不安定な場合、心理的ケアが行われている | | |
| 日課構成は適切か | | |  |
|  | * 子どもの状況に応じた、日課が構成されている * 入浴の回数は適切である | | |
| 一時保護所での生活を通して、徐々に生活習慣が身につくよう支援しているか | | |  |
|  |  | | |
| その他工夫している点 | | | |
|  | | | |
| ◆評価の留意点  子ども一人ひとりに必要な生活面でのケアが適切に提供されているかについて、確認します。  また、生活面のケアは、子どもたちが一時保護所での生活を通して徐々に生活習慣が身に付くよう支援することも重要になります。1日の生活のスケジュールが適切であり、基本的な生活習慣が習得されるような配慮が行われているかを確認してください。  特に幼児の保育においては、健康維持を第一においたケアがなされているか、情緒の安定が図られているか、基本的生活習慣の習得に十分に配慮されているかの確認が必要です。 | | | |

### レクリエーション

##### レクリエーションのための環境やプログラム等が適切に提供されているか

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| **[No.34]　レクリエーションのための環境やプログラム等が適切に提供されているか**  ◆ねらい  子どもの年齢にあわせたレクリエーションが提供されているかについて、その環境やプログラムが適切かを評価します。 | | | |
|  | | | |
|  | | ［No.34］の評価（s,a,b,c） |  |
|  | | | |
| 判断基準  （✓評価の視点・ポイント） | | | 評価  （○,△,×） |
| レクリエーションプログラム、自由に遊びのできる空間、読書や音楽鑑賞等を楽しむことのできる環境が提供されているか | | |  |
|  | * レクリエーションを実施するためのスペース、道具、設備等が整備されている | | |
| 子どもの年齢を考慮の上、スポーツ活動及び室内遊戯等を計画し、子どもの希望に応じて参加させるよう配慮しているか | | |  |
|  | * 子どもの年齢や希望に応じ、子どもが選択できるような工夫が行われている * 一時保護所内での実施可能な多様なプログラムが提供されている | | |
| 必要に応じ、事故防止に留意しつつ、野外活動等を実施することにより、子どもの安定化等に取り組んでいるか | | |  |
|  |  | | |
| その他工夫している点 | | | |
|  | | | |
| ◆評価の留意点  子どもの年齢や希望に応じ、スポーツ活動やゲーム、創作活動、読書、テレビやビデオ等の室内遊戯等のプログラムが選択できるような工夫がされているかを確認します。  一時保護所内でも実施可能な多様なプログラムが提供されているか、また野外活動等のプログラムが提供されているかを確認します。なお、野外活動等のプログラムにおいては、事故防止への配慮が適切になされているかも確認してください。 | | | |

### 食事（間食を含む）

##### 食事が適切に提供されているか

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| **[No.35]　食事が適切に提供されているか**  ◆ねらい  安全な食事が規則正しく提供されているかに加え、子どもたちが食事を楽しめるような工夫が行われているかを評価します。 | | | |
|  | | | |
|  | | ［No.35］の評価（s,a,b,c） |  |
|  | | | |
| 判断基準  （✓評価の視点・ポイント） | | | 評価  （○,△,×） |
| 1日３食の食事が提供されているか | | |  |
|  | * 1日３食の食事が、適切な時間に提供されている * あらかじめ一定期間の予定献立が作成されている * 栄養バランスに配慮された食事が提供されている * 食事時間が、最低30分は確保されている | | |
| 食事は衛生が確保されているか | | |  |
|  | * 厨房等の調理スペースは、衛生に保たれている * 食器等が汚れていない * 食事に携わる職員は、日常の健康管理に十分配慮するとともに、毎月定期的に検便を実施している | | |
| 食事アレルギーや個々の子どもの状態等に配慮した食事が提供されているか | | |  |
|  | * アレルギー対応食などの特別食の誤配膳の予防策がとられている * アセスメントができていない子どもがいることを想定した、食事アレルギー等への対応に配慮している * 宗教上の理由で食べられない食品への配慮が行われている | | |
| おいしく食事をするための配慮がなされているか | | |  |
|  | * 温かいものは温かく、冷たいものは冷たくして提供されている * 子どもの嗜好調査等を行われ、子どもの嗜好等の配慮した食事が提供されている * 適切な仕様の食器が選択されている * 食事のときのテーブルの高さ、椅子の高さに配慮されている * 食堂から見えるものへの影響がされている | | |
| 食事は、温かい雰囲気の中で提供されているか | | |  |
|  | * 明るく楽しい雰囲気で提供されている * 食材の彩りや盛り付けなど、見た目の工夫がされている | | |

|  |
| --- |
| その他工夫している点 |
|  |
| ◆評価の留意点  一時保護所は、子どもの入退所が多いため、食事については特に配慮が必要です。  まずは、３食の食事が適切な時間に提供されているか、衛生が確保されているか、栄養バランスや疾病やアレルギー等への配慮は十分か等、安全な食事を提供するための最低限が対応・配慮が行われているかを確認します。特に、アセスメントができていない子どもの受入れ時のアレルギー等にどのように配慮しているかは重要です。  次に、食事の温度や、食器や食具、テーブルや椅子の高さ、食事をする場所が適切かどうかなど、食事をおいしくとるための配慮がなされているかを確認します。  また、一時保護所の中で、食事は最も楽しみな時間の１つです。子どもたちが食事を楽しめる献立や雰囲気づくりの工夫が行われているかを確認してください。 |

### 衣服

##### 子どもの衣服は適切に提供されているか

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| **[No.36]　子どもの衣服は適切に提供されているか**  ◆ねらい  子どもが清潔で、気候、好みにあった衣服を着用できる環境であるかを評価します。 | | | |
|  | | | |
|  | | ［No.36］の評価（s,a,b,c） |  |
|  | | | |
| 判断基準  （✓評価の視点・ポイント） | | | 評価  （○,△,×） |
| 衣服の清潔は保たれているか | | |  |
|  | * 洗濯の回数・方法が適切である * 肌着を使い回していない（下着は新品を使用） | | |
| 衣習慣が身に付くように支援しているか | | |  |
|  | * 気候にあわせた衣服を着用するよう指導している * 子どもの年齢や発達段階に応じた、衣服類の管理のための指導を行っている | | |
| 発達段階や好みにあわせて子ども自身が選択できるようにしているか | | |  |
|  |  | | |
| 適切な衣服を貸与できる | | |  |
|  | * 気候にあわせた衣服を貸与している * 古びた衣服、穴のあいた衣服を貸与していない * 破損したりした場合、繕ったり交換している | | |
| その他工夫している点 | | | |
|  | | | |
| ◆評価の留意点  子どもの衣服が清潔に保たれているか、気候にあわせた衣服を着用できているか、また子どもの好みを尊重しているかを確認します。必要に応じて適切な衣服を貸与できるかも重要です。  子どもの年齢や発達段階に応じ、自分の衣服類の管理が適切に行えるような指導を行っているかも確認してください。 | | | |

### 睡眠

##### 子どもの睡眠は適切に行われているか

**[No.37]　子どもの睡眠は適切に行われているか**

◆ねらい

子どもたちが安心して、必要な睡眠をとれる環境となっているかを評価します。

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | | | |
|  | | | |
|  | | ［No.37］の評価（s,a,b,c） |  |
|  | | | |
| 判断基準  （✓評価の視点・ポイント） | | | 評価  （○,△,×） |
| 就寝・起床時刻は適切か | | |  |
|  | * 発達段階に応じた睡眠時間が確保されている * 職員側の都合で睡眠時間が設定されていない（中学生等に度を越えた長い睡眠時間、年長幼児へ午睡の強要） | | |
| 睡眠環境は適切か | | |  |
|  | * 就寝時の空調温度が適切に設定されている * 清潔な寝具、子どもの状況や好みに応じた布団やまくらの選択などの配慮がなされている * 特別な配慮が必要な場合に添い寝等の対応をしている | | |
| その他工夫している点 | | | |
|  | | | |
| ◆評価の留意点  どもの年齢に応じた適切な就寝・起床時刻が設定されているか、睡眠しやすいような設備や環境への配慮がなされているかを確認します。  また、一時保護所の子どもたちには、精神的に不安定であり、寝付けなかったり、うなされたりしてしまう子どももいます。子どもの状況に応じ、どのような対応・工夫を行っているのかを確認してください。 | | | |

### 健康管理

##### 子どもの健康管理が適切に行われているか

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| **[No.38]　子どもの健康管理が適切に行われているか**  ◆ねらい  日々の健康管理や体調不良等が発生した場合の対応方法が適切か、また子どもの健康管理において適切な関係機関との連携体制が確保されているかを確認します。 | | | |
|  | | | |
|  | | ［No.38］の評価（s,a,b,c） |  |
|  | | | |
| 判断基準  （✓評価の視点・ポイント） | | | 評価  （○,△,×） |
| 子どもの健康状態が把握されているか | | |  |
|  | * 毎朝、子どもの健康状態を把握し、記録に残している * 医師、保健師、看護師との十分な連携を図り、子どもの健康管理に配慮する仕組みがある | | |
| 子どもの健康状態により、必要に応じて診察や処置を行っているか | | |  |
|  | * 必要に応じて健康診査を受けさせている * 体調不良やケガ等が発生した場合の対応方法が明確になっている * 応急の医薬品等が備え付けられている * 診療科目ごとに行く医療機関がリストアップされている * 診療に必要な「受診券」が準備されている * 診療に連れて行く職員が確保できる体制になっている | | |
| その他工夫している点 | | | |
|  | | | |
| ◆評価の留意点  子どもにとっては新しく慣れない環境での生活になるため、心身の変調をきたしやすいことから、医師、保健師、看護師との連携のもとで、健康管理に十分に配慮する必要があります。  毎朝子どもの健康状態を観察するなどの日々の健康管理の状況の他、体調不良やケガ等が発生した場合の対応方法が明確になっているか、特に配慮が必要な子どもへの対応など、一時保護中の健康管理に関する対応方針が明確になっているか、適切かを確認してください。  また、医師等の医療機関と必要な連携が図られているかについて、具体的な連携内容や体制等について把握し、適切かを確認します。 | | | |

### 教育・学習支援

##### 子どもの教育・学習支援が適切に行われているか

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| **[No.39]　子どもの教育・学習支援が適切に行われているか**  ◆ねらい  子どもの状況や特性、学力に配慮した教育・学習支援が行われているかを評価します。 | | | |
|  | | | |
|  | | ［No.39］の評価（s,a,b,c） |  |
|  | | | |
| 判断基準  （✓評価の視点・ポイント） | | | 評価  （○,△,×） |
| 子どもの状況や特性、学力に配慮した教育・学習支援を行っているか | | |  |
|  | * 在籍校（教育委員会）等との連携を図り、職員派遣や教材提供を受ける等、子どもの学習支援が実施できる体制が整備されている * どのような学習を展開することが有効かを、在籍校と協議している * 取組むべき学習内容や教材などを在籍校から送付してもらうなど、創意工夫した学習を展開している * 一時保護期間が長期化する子どもについて、在籍校及び教育委員会と具体的な対策について多角的に検討し、就学機会の確保に努めている * 学力査定を行っている * 得意不得意を把握している | | |
| その他工夫している点 | | | |
|  | | | |
| ◆評価の留意点  一時保護中の通学に関する制限は、子どもの安全の確保が図られ、かつ一時保護の目的が達成できる範囲において必要最小限で行うこととなっています。しかし通学ができない子どもも多く、子どもの学習権を尊重するための取組みが重要となっています。  通学できない子どもについて、一時保護所内で教育を受ける機会が確保されているか、どのような学習を提供しているかについて、在籍校との連携状況を含めて確認します。  また、一時保護をしている子どもの中には、学習するだけの精神状況にない、あるいは学業を十分に受けていないために基礎的な学力が身についていない子どももいます。このような子どもに対しては、学ぶことの楽しさや達成感などを味わうことで学習意欲を高める工夫も必要であるなど、一人ひとりの子どもに応じた学習支援が行えているかについても確認する必要があります。  なお、一時保護期間が長期化している子どもがいる場合には、都道府県又は市町村の教育委員会等との連携・検討状況ならびに就学機会が確保されているかについて確認してください。 | | | |

### 保育

##### 未就学児に対しては適切な保育を行っているか

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| **[No.40]　未就学児に対しては適切な保育を行っているか**  ◆ねらい  未就学児の子どもに対し、子どもの年齢等に応じた保育が提供されているかを評価します。 | | | |
|  | | | |
|  | | ［No.40］の評価（s,a,b,c） |  |
|  | | | |
| 判断基準  （✓評価の視点・ポイント） | | | 評価  （○,△,×） |
| 保育所運営指針による保育を基本としているか | | |  |
|  | * 必要な支援を行う体制が確保されている * 必要な保育が提供されている | | |
| 発達の個人差、生活環境の差異、経験の差異を考慮した保育が行われているか | | |  |
|  | * 子どもの年齢や発達段階に応じて提供できる保育メニューや遊びの内容等の工夫が行われている * 子どもの年齢や発達段階に応じて、必要な注意や配慮が行われている | | |
| その他工夫している点 | | | |
|  | | | |
| ◆評価の留意点  未就学児の子どもに行う保育が、子どもの年齢や発達段階に応じて提供できるような保育メニューや遊びの内容等の工夫が行われているかを確認します。  どのような遊びをとりいれているか、遊びに応じた遊具が準備されているか、どのような点に注意を払って保育をしているかなどを、保育計画やヒアリング等により確認してください。 | | | |

### 保護者・家庭への感情、家族の情報、家族との面会等

##### 家族等との面会や、家族等に関する情報提供等は適切に行われているか

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| **[No.41]　家族等との面会や、家族等に関する情報提供等は適切に行われているか**  ◆ねらい  子どもに対する家族の情報提供や家族との面会等が行われているか、それにあたっての子どもの意見の聴取や説明等の対応について評価します。 | | | |
|  | | | |
|  | | ［No.41］の評価（s,a,b,c） |  |
|  | | | |
| 判断基準  （✓評価の視点・ポイント） | | | 評価  （○,△,×） |
| 子どもの年齢に応じ、家族に対する支援や対応に関して説明を行っているか | | |  |
|  | * 子どもの年齢や状況に応じ、家族や家族に対する支援や対応に関する情報を提供している * 面会等を制限している場合には、子どもに対してその説明がしっかりと行われている | | |
| 子どもに対して行った情報提供や説明の内容について、関係者間で共有されているか | | |  |
|  | * 具体的方法が共有されている * 情報の漏えいを防ぐ方法が手当てされている | | |
| 家族との面会等は、子どもの安全と安心、子どもの意志や気持ちを踏まえ総合的に判断されているか | | |  |
|  | * 一番近くで生活をともにしている大人としてのアドボカシーが尊重されている * 子どもの意見を十分に聴取し、拒否してもよいことを伝えている | | |
| その他工夫している点 | | | |
|  | | | |
| ◆評価の留意点  子どもの保護者への感情は複雑であり、保護者を大切に思う言葉の裏に怒りがあることや、保護者に対して怒りの言葉がある裏に思慮の思いがあることもあります。また、一時保護に至る過程で家族に起きたことを自分のせいだと思っている子どもも少なくありません。子どもは常に家族のことを気にかけているといことを意識した対応が必要です。  子どもに対し、状況に応じて家族や、家族に対する支援や対応に関する情報を提供しているかを確認し、情報提供にあたっては、子どもの年齢に応じた説明を行っているか、そしてその説明が一時保護所の他関係者間で共有されているかについて、記録等から確認します。  また、家族との面会等については、子どもの意見を十分に聴取し、拒否してもよいことを伝えるとともに、子どもの安心感をもたらす、子どもの不安軽減や疑問に答えるなどのケアを行っているかを確認してください。なお、面会等を制限している場合には、子どもに対してその説明がしっかりとされているかの確認が必要です。 | | | |

## 特別なケアの実施

### 性的問題への対応

##### 子どもの性的問題に対して、適切な対応が行われているか

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| **[No.42]　子どもの性的問題に対して、適切な対応が行われているか**  ◆ねらい  性的問題を抱えた子どもに対する検討や個別処遇の状況及び性的問題を予防するために行っている取組みについて評価します。 | | | |
|  | | | |
|  | | ［No.42］の評価（s,a,b,c） |  |
|  | | | |
| 判断基準  （✓評価の視点・ポイント） | | | 評価  （○,△,×） |
| 受入時には、多職種によるカンファレンスを行っているか | | |  |
|  | * 性的問題行動の内容と背景要因を理解したうえで、一時保護期間中の支援・対処方法を検討している | | |
| 子どもの問題に応じた治療教育、性教育などの支援を行っているか | | |  |
|  | * 具体的な身体的部位の名称や役割、ルールや人との距離感などを教えている | | |
| 一時保護所の子どもの中で、性的問題行動が起きた場合には、適切な対処が行われているか | | |  |
|  | * 他の子どもたちと分離している * 分離できる設備と職員体制が確保されている * 教育・指導を改めて行っている * 他の子どもと合流する際には、他の子どもとの関係性を評価している | | |
| ＰＴＳＤ症状、訴えがみられた場合は、迅速に児童心理司、医師に報告し、適切な対応を行っているか | | |  |
|  | * 警察等の面接が行われた後に、丁寧なケア、フォローを行っている | | |
| その他工夫している点 | | | |
|  | | | |
| ◆評価の留意点  一時保護所における子どもの性的問題は多様であり、一人ひとりの性的問題の状況を理解したうえでその行動の見立てを行い、適切な対処を多職種で検討することが重要です。  まずは、性的問題を起こして一時保護されてくる子どもならびに性的虐待・性被害を受けた子どもに対して、どのような検討や個別処遇を行っているのかを確認してください。  また、性的問題を予防するため、一時保護所として子どもに対して行っている説明や指導、工夫等の取組みについて確認します。 | | | |

### 問題行動のある子どもへの対応

##### 他害や自傷行為を行う可能性のある子どもに対して、適切な対応を行っているか

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| **[No.43]　他害や自傷行為を行う可能性のある子どもに対して、適切な対応を行っているか**  ◆ねらい  他害や自傷行為を行う可能性のある子どもについて、その行動の背景・要因についての丁寧なアセスメントに基づく対応が行われているかを評価します。 | | | |
|  | | | |
|  | | ［No.43］の評価（s,a,b,c） |  |
|  | | | |
| 判断基準  （✓評価の視点・ポイント） | | | 評価  （○,△,×） |
| 他害や自傷行為等の逸脱行為がある又は行う可能性のある場合には、その背景のアセスメントを実施しているか | | |  |
|  | * 受入時に他害や自傷行為を行う可能性が把握されている * 心理的状況や他害、自傷行為につながる行動を止める方法について、児童福祉司や多職種とともにアセスメントを行い、対応についての方針が検討されている * 心理的状況や他害、自傷行為につながる行動を止める方法について、子どもと一緒に考えている | | |
| アセスメントに基づく対応方針に応じたケアが行われているか | | |  |
|  | * 心理的ケアを行う等により、安定した生活を送れるよう配慮している * 保護期間中、必要な子どもには十分な医学的アドバイスを受けている | | |
| 他害等の逸脱行動には毅然と対応しているか | | |  |
|  | * 緊急時に必要な応援体制が確保されている * 緊急時には110番することが合意されている * 最終的には家裁送致を行うなどが共有されている * 他の子どもとの関係にも十分に配慮した対応が行われている | | |
| その他工夫している点 | | | |
|  | | | |
| ◆評価の留意点  他害や自傷行為を行う子どもには、その行動にではなく、行動の背景・要因と向き合い、理解したうえでの対応が必要となります。  受入時に他害や自傷行為を行う可能性が把握されているか、その可能性のある子どもについて、医師などの医療職を含めたアセスメントを行い、対応についての方針が検討されているかを確認します。また、その方針に基づく対応が行われているかを確認してください。  他害や自傷行為は、他の子どもに与える影響も大きいことから、他の子どもとの関係にも十分に配慮した対応が行われているかも重要です。 | | | |

### 無断外出を行う子どもへの対応

##### 無断外出を行う子どもに対して、適切な対応を行っているか

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| **[No.44]　無断外出を行う子どもに対して、適切な対応を行っているか**  ◆ねらい  子どもの無断外出を行った子どもに対して、その子どもをしっかりと受け止めたうえで子どもが納得できるような対応が行われているか、また無断外出が発生した場合に、他の子どもたちへの配慮がなされているかを評価します。 | | | |
|  | | | |
|  | | ［No.44］の評価（s,a,b,c） |  |
|  | | | |
| 判断基準  （✓評価の視点・ポイント） | | | 評価  （○,△,×） |
| 無断外出を行う又は行う可能性のある場合には、その背景のアセスメントを実施しているか | | |  |
|  | * 受入時に無断外出を行う可能性が把握されている * 心理的状況や無断外出を止める方法、児童福祉司や多職種とともにアセスメントを行い、対応についての方針が検討されている * 心理的状況や無断外出を止める方法について、子どもと一緒に考えている | | |
| 無断外出が発生した場合に、その子どもに対して適切な対応を行っているか | | |  |
|  | * 無断外出した子どもを温かく迎え入れ、子どもからの説明にじっくりと傾聴し、受け止めている * 無断外出した子どもに、作業や運動などを罰として科すなどの対応をしていない | | |
| 無断外出があった場合には、その子ども以外に対しても適切な対応を行っているか | | |  |
|  | * 無断外出があった場合には、保護者その他関係者に連絡している * 無断外出が発生した場合には、その影響を受けている子どもたちへの配慮も行われている | | |
| その他工夫している点 | | | |

|  |
| --- |
|  |
| ◆評価の留意点  子どもが一時保護についてある程度納得できるようになるまでにはある程度の時間が必要です。子どもの状況や特性などを踏まえて関係者間で連携した未然防止に努めることが必要ですが、無断外出等が発生した場合に、その影響を受けている子どもたちを含めて、適時適切に対応することが求められます。  無断外出した子どもが帰ってきたときには、温かく迎え入れ、帰ってきてくれた喜びを伝えるとともに、子どもからの説明にじっくりと傾聴し、様々な感情を受け止めているか等について、無断外出発生時の対応記録や、対応方法について記載されたマニュアル等から確認します。あわせて、無断外出発生時の他の子どもたちへの対応方針、対応記録についても確認してください。  また、無断外出などの行動上の問題に対して、作業や運動などを罰として科すといった対応が行われていないかも確認が必要です。 |

### 重大事件に係る触法少年への対応

##### 重大事件に係る触法少年に対して、適切な対応を行っているか

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| **[No.45]　重大事件に係る触法少年に対して、適切な対応を行っているか**  ◆ねらい  一定の重大事件に係る触法少年と思料される子どもに対する支援内容に応じた支援体制が確保されているかを評価します。 | | | |
|  | | | |
|  | | ［No.45］の評価（s,a,b,c） |  |
|  | | | |
| 判断基準  （✓評価の視点・ポイント） | | | 評価  （○,△,×） |
| 一定の重大事件に係る触法少年と思料される子どもの一時保護にあたっては、必要な手続き、支援体制の確保が行われているか | | |  |
|  | * 各種調査・診断を経たうえで、支援内容が決定されている * 事件の内容や、子どもの状況に応じて、必要な専門家のチームによるバックアップ体制がある | | |
| 重大事件の場合には、刺激の少ない部屋で安心させる対応を行っているか | | |  |
|  |  | | |
| 重大事件の場合には、他児との関係に関する配慮を行っているか | | |  |
|  |  | | |
| その他工夫している点 | | | |
|  | | | |
| ◆評価の留意点  一定の重大事件に係る触法少年と思料される子どもには、専門的な支援が必要となる場合もあることから、事件の内容、子どもの状態などに応じた専門家のバックアップチームを作っての対応が求められます。  一定の重大事件に係る触法少年と思料される子どもの一時保護にあたっては、児童相談所における各種調査・診断を経たうえで支援内容が決定されているか、必要なバックアップ体制があるかを確認します。  また、特に重大事件の場合には、他児との関係に対する配慮がなされているかも確認してください。 | | | |

### 身近な親族等を失った子どもへの対応

##### 身近な親族等を失った子どもに対して、適切な対応を行っているか

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| **[No.46]　身近な親族等を失った子どもに対して、適切な対応を行っているか**  ◆ねらい  身近な親族等を失った子どもに対して、子どもの年齢や状況に応じた特別な配慮・対応が行われているかを評価します。 | | | |
|  | | | |
|  | | ［No.46］の評価（s,a,b,c） |  |
|  | | | |
| 判断基準  （✓評価の視点・ポイント） | | | 評価  （○,△,×） |
| 身近な親族が亡くなったことを適切な時期に適切な方法で伝えているか | | |  |
|  | * 事件の内容、子どもの状況に応じて、専門家のバックアップチームによる対応を行っている | | |
| 葬儀等に参加させているか | | |  |
|  |  | | |
| 必要によりグリーフケアやモーニングワークを行っているか | | |  |
|  |  | | |
| その他工夫している点 | | | |
|  | | | |
| ◆評価の留意点  身近な親族等が亡くなった場合には、子どもの年齢や状況に応じた特別な配慮・対応を行わなくてはなりません。子どもの意向を確認し、葬式への参列等についても調整を行う必要があります。一方で、子どもの状況を踏まえて亡くなったことを伝える配慮も必要となります。  身近な親族等が亡くなった場合に、どのような対応を行っているかを確認してください。 | | | |

### その他の配慮が必要な子どもへの対応

##### 被虐待児を受け入れる場合には、適切な対応・体制確保が行われているか

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| **[No.47]　被虐待児を受け入れる場合には、適切な対応・体制確保が行われているか**  ◆ねらい  被虐待児の受入にあたり、支援上の配慮が行えるよう、一時保護所内及び外部を含めた支援体制が確保されているかを評価します。 | | | |
|  | | | |
|  | | ［No.47］の評価（s,a,b,c） |  |
|  | | | |
| 判断基準  （✓評価の視点・ポイント） | | | 評価  （○,△,×） |
| 受入を行った場合に、必要な支援が行える環境・体制があるか | | |  |
|  | * 被虐待児であることや、子どもの心身の状況等に関する把握が行えている * 子どもの心身の状況等について、早期かつ的確な評価が行われており、一時保護期間中の支援上の配慮等の方針が検討されている * 必要なケアを行うための専門職を含めたチームケアの体制がある | | |
| 対応方針に応じたケアが行われているか | | |  |
|  | * 心理的ケアを行う等により、安定した生活を送れるよう配慮している * 保護期間中、必要な子どもには十分な医学的アドバイスを受けている * 保護期間中、必要な子どもに治療的なケアを行っている | | |
| その他工夫している点 | | | |
|  | | | |
| ◆評価の留意点  虐待や不適切なかかわりを受けた子どもは、心理的な傷も負っており、それがさまざまな症状や行動としてあらわれてくることがあります。そのことを十分に理解し、適切な支援・対応が行える体制が確保されていなくてはなりません。  子どもが必要とする心理的ケア、治療的ケアなどの専門的なケアを行える体制があるか、必要な専門職を含めたチームケアの体制があるかを確認します。 | | | |

##### 障害児を受け入れる場合には、適切な対応・体制確保が行われているか

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| **[No.48]　障害児を受け入れる場合には、適切な対応・体制確保が行われているか**  ◆ねらい  障害児の受入にあたり、支援上の配慮が行えるよう、一時保護所内及び外部を含めた支援体制が確保されているかを評価します。 | | | |
|  | | | |
|  | | ［No.48］の評価（s,a,b,c） |  |
|  | | | |
| 判断基準  （✓評価の視点・ポイント） | | | 評価  （○,△,×） |
| 受入を行った場合に、必要な支援が行える環境・体制があるか | | |  |
|  | * 子どもの障害の状況等に関する把握が行えている * 子どもの障害の状況等について、早期かつ的確な評価が行われており、一時保護期間中の支援上の配慮等の方針が検討されている * 身体障害を有する子どもの受入を行うにあたり、バリアフリーや設備等などのハード面での環境整備や工夫が行われている * 身体障害や知的障害を有する子どもの受入を行うにあたり、介助を含んだ生活支援が行える体制がある * 発達障害を有する子どもの受入を行うにあたり、刺激のコントロールが行える環境や体制がある * 必要なケアを行うための専門職を含めたチームケアの体制がある | | |
| 対応方針に応じたケアが行われているか | | |  |
|  | * 心理的ケアを行う等により、安定した生活を送れるよう配慮している * 保護期間中、必要な子どもには十分な医学的アドバイスを受けている * 保護期間中、必要な子どもに治療的なケアを行っている * 個別の日課や支援計画に、定期的な通院、心理的ケア、治療的ケア等の必要な支援が組み込まれている | | |
| 障害を有する子どもの受入にあたり、他の子どもに対する障害への理解を深めるなどの取組みがなされているか | | |  |
|  | * 障害への理解を深めるための取組みがなされている * 障害の有無に関係なく、互いを尊重しあう人間関係づくりの工夫などが行われている | | |
| その他工夫している点 | | | |

|  |
| --- |
|  |
| ◆評価の留意点  障害は多様であり、障害の特性や一人ひとりの発達や置かれている状況に応じた個別の対応が必要です。  設備などのハード面での工夫がなされているか、子どもが必要とする心理的ケア、治療的ケアなどの専門的なケアを行える体制があるか、必要な専門職を含めたチームケアの体制があるかを確認します。  また、他の子どもに対して、障害への理解や、互いを尊重しあう人間関係づくりの工夫などの取組みがなされているかも確認してください。 |

##### 健康上配慮が必要な子どもを受け入れる場合には、適切な対応・体制確保が行われているか

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| **[No.49]　健康上配慮が必要な子どもを受け入れる場合には、適切な対応・体制確保が行われているか**  ◆ねらい  健康上配慮が必要な子どもの受入にあたり、支援上の配慮が行えるよう、一時保護所内及び外部を含めた支援体制が確保されているかを評価します。 | | | |
|  | | | |
|  | | ［No.49］の評価（s,a,b,c） |  |
|  | | | |
| 判断基準  （✓評価の視点・ポイント） | | | 評価  （○,△,×） |
| 受入を行った場合に、必要な支援が行える環境・体制があるか | | |  |
|  | * 子どもの健康の状況に関する把握が行えている * 子どもの健康の状況等について、早期かつ的確な評価が行われており、一時保護期間中の支援上の配慮等の方針が検討されている * 服薬管理、定期的な注射等の医療行為など、日常生活における必要な支援や対応が行える体制がある * 職員間での情報共有や観察・管理を徹底するための取組みが行われている * 子どもの健康状況に応じ、想定される緊急時の対応が明確になっており、職員間で共有されている | | |
| 対応方針に応じたケアが行われているか | | |  |
|  | * 心理的ケアを行う等により、安定した生活を送れるよう配慮している * 保護期間中、必要な子どもには十分な医学的アドバイスを受けている * 保護期間中、必要な子どもに治療的なケアを行っている * 個別の日課や支援計画に、日常的な服薬管理、ホルモン剤やインシュリンなどの定期的な注射や吸入などの対応や、定期的な通院、心理的ケア、治療的ケア等の必要な支援が組み込まれている * 個別の日課や支援計画に、日常生活において留意すべき疾病やその対応方法等が明記されている（エピペンが処方されている等の重度のアレルギー、血友病、日光禁止の疾病など） | | |
| その他工夫している点 | | | |
|  | | | |
| ◆評価の留意点  健康上配慮が必要な子どもや、服薬管理の必要な子どもを受け入れるにあたり、日常生活における必要な支援や対応が行える体制となっているか、職員間での情報共有や観察・管理を徹底するためのルールづくり等の工夫がなされているかを確認します。  また、緊急時の対応が明確になっており、職員間で共有されているかの確認も必要です。 | | | |

## 安全対策

### 無断外出防止及び発生時対応

##### 無断外出の防止に努めるとともに、発生時の対応は明確になっているか

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| **[No.50]　無断外出の防止に努めるとともに、発生時の対応は明確になっているか**  ◆ねらい  子どもの無断外出を未然に防止するための対策を講じているか、また無断外出が発生した場合の対応が明確になっており、発生時にはその方針に沿った対応が行われているかを評価します。 | | | |
|  | | | |
|  | | ［No.50］の評価（s,a,b,c） |  |
|  | | | |
| 判断基準  （✓評価の視点・ポイント） | | | 評価  （○,△,×） |
| 無断外出があった場合の対応は明確になっているか | | |  |
|  | * 無断外出があった場合の対応は明確になっている * 無断外出があった場合には、職員自ら子どもの発見・保護に努めている * 無断外出があった場合には、保護者その他関係者に連絡している * 無断外出があった場合には、必要に応じ、警察署に連絡して、発見・保護を依頼している * 無断外出した子どもが、他の都道府県等の児童相談所等に一時保護された場合の移送あるいは引き取りについて、子どもの福祉を十分に勘案して決定している | | |
| 無断外出の未然防止に努めているか | | |  |
|  | * 無断外出の可能性のある子どもの把握が行えている * 子どもの状態や特性などについて一時保護先の養育者間で情報を共有し、連携して無断外出の未然防止に取り組んでいる | | |
| その他工夫している点 | | | |
|  | | | |
| ◆評価の留意点  一時保護所からの無断外出は、子どもの最善の利益を損なうことにもつながり兼ねないものであることから、できる限りその防止にと努めることが必要です。  一時保護開始時に、保護の経緯や子どもの状態や特性などから無断外出の可能性のある子どもの把握を行い、未然防止策を講じているかを確認します。  また、無断外出が発生した場合の対応や連絡先が明確になっているかを確認し、発生事例がある場合には、子どもの発見・保護を行うために、必要な体制確保及び関係機関への連絡等が行われているかを確認してください。  なお、他の都道府県等の児童相談所等に一時保護された場合には、移送あるいは引き取りの決定にあたり、子どもの福祉が十分に勘案されているかを確認する必要があります。 | | | |

### 災害時対策

##### 災害発生時の対応は明確になっているか

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| **[No.51]　災害発生時の対応は明確になっているか**  ◆ねらい  災害発生時に備え、避難計画等の作成や関係機関との連携体制が構築されているか、また計画に基づく訓練が定期的に行われているかを評価します。 | | | |
|  | | | |
|  | | ［No.51］の評価（s,a,b,c） |  |
|  | | | |
| 判断基準  （✓評価の視点・ポイント） | | | 評価  （○,△,×） |
| 火災等の非常災害に備え、具体的な避難計画を作成しているか | | |  |
|  | * 具体的な避難計画が作成されている * 避難計画は、少人数勤務となる夜間について、他の職員の協力を求める体制を整える等の配慮が行われている * 防炎カーテンの設置など、設備上の火災等の発生防止を行っている * 避難動線が確保されており、非常口が塞がれていない * 消火器及び消火栓が稼動することが確認できている | | |
| 避難訓練を毎月１回以上実施しているか | | |  |
|  | * 避難計画に基づく避難訓練が実施されている | | |
| 日頃から、消防署、警察署、病院等の関係機関との連携に努め、緊急事態発生時に迅速、適切な協力が得られるように努めている | | |  |
|  |  | | |
| その他工夫している点 | | | |
|  | | | |
| ◆評価の留意点  火災等の非常災害に備え、具体的な避難計画が作成されているかを確認します。避難計画は、少人数勤務となる夜間について、他の職員の協力を求める体制を整える等の配慮がなされているかが重要です。  また、避難計画に基づき毎月１回以上の避難訓練が実施されているかを確認してください。  なお、災害時を含め、緊急事態発生時には関係機関から迅速かつ適切な協力が得られるよう日頃からの連携、調整を行っておく必要があります。消防署や警察署、病院等の関係機関との間において、緊急事態発生時の連携、調整についての方針が定められているかも確認します。 | | | |

### 感染症対策

##### 感染症の予防に努めるとともに、発生時の対応が明確になっているか

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| **[No.52]　感染症の予防に努めるとともに、発生時の対応が明確になっているか**  ◆ねらい  感染症の発生及び感染拡大を予防するための対策が講じられているかを評価します。 | | | |
|  | | | |
|  | | ［No.52］の評価（s,a,b,c） |  |
|  | | | |
| 判断基準  （✓評価の視点・ポイント） | | | 評価  （○,△,×） |
| 感染症の発生を防ぐための対策が講じられているか | | |  |
|  | * 一時保護開始時に、子どもの感染症の有無や可能性を把握している * 子どもが感染症を有している場合又は有する可能性がある場合には、他の子どもから隔離する、必要な治療を行うなどの対応が行えている * ノロウィルスやインフルエンザなど、季節的な流行のある感染症について、その発生を防止するための取組みが行われている | | |
| 感染症が発生した場合の対応が明確になっているか | | |  |
|  | * 感染症発生時について、マニュアル等によりその対応が明確になっている * 感染症が発生した場合に発症した子どもを隔離するための静養室などの設備がある * 既設や症状等から予測して適切な対応が行えるよう、必要な消毒剤等が準備されている（ノロウィルス発生時のための次亜塩素酸ナトリウムなど） | | |
| その他工夫している点 | | | |
|  | | | |
| ◆評価の留意点  一時保護所では集団生活であることから、感染症の発生及び拡大予防に努めなくてはなりません。  一時保護開始時に、子どもの健康状態として感染症の有無や可能性を把握しているか、また感染症を有するまたは可能性がある場合に、感染拡大を予防するための対策が講じられているかを確認します。  加えて、一時保護所内における食中毒等の発生予防や、感染症発生時について、マニュアル等により対応が明確になっているかを確認してください。 | | | |

## 質の維持・向上

##### 一時保護所の運営・業務に関する基本的な対応方針や手順は明確になっているか

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| **[No.53]　一時保護所の運営・業務に関する基本的な対応方針や手順は明確になっているか**  ◆ねらい  一時保護所における養育・支援の標準的な実施方法が文書化され、それにもとづいた養育・支援が実施されているかを評価します。 | | | |
|  | | | |
|  | | ［No.53］の評価（s,a,b,c） |  |
|  | | | |
| 判断基準  （✓評価の視点・ポイント） | | | 評価  （○,△,×） |
| マニュアル等が作成され、職員全体で共有や確認できる体制があるか | | |  |
|  | * 養育・支援全般にわたって定められたマニュアルがある   ・基本的な相談援助に関する事項  ・養育・支援実施時の留意点  ・子どものプライバシーへの配慮  ・設備等の一時保護所の環境に応じた業務手順   * リスク管理に関して定めたマニュアルがある   ・想定されるリスク  ・未然防止策と発生時の対応   * 各マニュアルの目的に応じて活用され、（マニュアルの内容に関する研修の実施、職員の執務スペースなどへの設置等） | | |
| マニュアル等の内容の実効性を高めるための取組が行われているか | | |  |
|  | * マニュアルの内容に関する研修が実施されている * 職員の執務スペースなど、必要な時にいつでも職員が確認できるように工夫されている * その他、各マニュアルの目的に応じた活用の工夫がある | | |
| マニュアル等の内容に基づき、実施されていることを確認する仕組みがあるか | | |  |
|  | * 定期的にチェックを行う仕組みがある * ＳＶによる確認が行われている * マニュアル等に基づくケア等が行われている（マニュアルが形骸化していない） | | |
| マニュアル等の内容について見直し等が行われているか | | |  |
|  | * 必要に応じて、マニュアル等の見直しが行われている * 定期的に見直しを行う仕組みがある * マニュアル等の見直しにあたり、ボトムアップの仕組みがある（担当者が定められている、職員の意見を反映する仕組みなど） | | |

|  |
| --- |
| その他工夫している点 |
|  |
| ◆評価の留意点  子どもに対する養育・支援は、子どもの状況や必要とする支援等に応じて柔軟に行われるべきものです。一方で、養育・支援をする職員誰もが行わなくてはならない基本となる部分を共有するための「標準化」も必要です。標準化とは、一時保護所における子どもの状況等を踏まえた標準的な実施方法等を定め、職員の違い等による養育・支援の水準や内容の差異を極力なくし、一定の水準、内容を常に実現することを目指すものであり、標準的な実施方法を定め、一定の水準、内容を保ったうえで、それぞれの子どもの個別性に着目した対応を行うことが必要です。  標準的な実施方法は、文書化され、職員が十分に理解していることが不可欠であり、養育・支援全般にわたって定められたマニュアル等があるかを確認します。具体的な内容としては、基本的な相談・援助技術に関する事項、養育・支援の実施時の留意点や子どものプライバシーへの配慮、設備等の一時保護所の環境に応じた業務手順等が想定されます。  また、マニュアル等に基づいて実施されているか、それを確認するための仕組みがあるかも確認してください。 |

##### 一時保護所としての質の向上を行うための仕組みがあるか

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| **[No.54]　一時保護所としての質の向上を行うための仕組みがあるか**  ◆ねらい  総合的かつ継続的な質の向上のための組織的な仕組みがあるか、その仕組みによる取組みが実行されているかを評価します。 | | | |
|  | | | |
|  | | ［No.54］の評価（s,a,b,c） |  |
|  | | | |
| 判断基準  （✓評価の視点・ポイント） | | | 評価  （○,△,×） |
| 自己評価が定期的に行われているか | | |  |
|  |  | | |
| 外部評価の仕組みがあり、定期的に行われているか | | |  |
|  |  | | |
| 自己評価や外部評価の結果を踏まえた質の向上のための取組が行われているか | | |  |
|  | * 評価結果や苦情相談内容を、質の向上のための取組みにつなげていく仕組みがある * 評価結果及び苦情相談内容に基づく質の向上を行った実績がある | | |
| 職員間での共有や職員一体となった取組が行われるようになっているか | | |  |
|  | * PDCAのサイクルを恒常的に実施する仕組みがある * PDCAサイクルに基づく、質の向上を行った実績がある * PDCAサイクルに全職員が参画するなど、組織的な取組みとするための工夫が行われている | | |
| その他工夫している点 | | | |
|  | | | |
| ◆評価の留意点  養育・支援の質の向上は、日々の取組みとともに、自己評価の実施や第三者評価の受審、苦情相談内容に基づく改善活動等が総合的かつ継続的に実施される必要があります。そのため、施設が自らの質の向上に努める組織づくりを進めていることが重要です。  日常的な養育・支援の質の向上に向けた具体的な取組みの有無とともに、P（Plan・計画策定）→ D（Do・実行）→ C（Check・評価）→ A（Act・見直し）のサイクルを恒常的に実施する仕組みがあるか、それに基づく取組みが実行されているかを確認します。  また、この仕組みによる効果を高めるためには、より多くの職員の理解と参画を得ることが重要であり、施設全体での組織的な取組みとなっているかを確認してください。 | | | |

# 一時保護所における子どもへのケア・アセスメント

## アセスメントの実施

### 保護開始時

##### 保護開始にあたって、子どもや子どもの家庭に関する情報等が適切に把握されているか

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| **[No.55]　保護開始にあたって、子どもや子どもの家庭に関する情報等が適切に把握されているか**  ◆ねらい  一時保護を行うにあたり、子どもの養育・支援に必要となる情報が把握されているか、また集団生活をさせても問題がないことを確認しているかを評価します。 | | | |
|  | | | |
|  | | ［No.55］の評価（s,a,b,c） |  |
|  | | | |
| 判断基準  （✓評価の視点・ポイント） | | | 評価  （○,△,×） |
| 一時保護を行うにあたり、子どもの家庭の状況、心身の状況、性格、成長・発達等の状況を十分に把握できているか | | |  |
|  | * 可能な限り、子どもや家庭の状況に関する情報を把握するための取組みが行われている * 必要に応じて、子どもに直接聞き、情報の把握・確認を行っている * 保護開始時に必要な情報が得られていない場合には、保護開始後にも関係機関等との連携により、迅速な情報収集に努めている | | |
| 集団生活をさせても問題がないかの確認が行えているか | | |  |
|  | * 集団生活に関する子どもの健康状態等についての確認を行っている（アレルギーの有無、ワクチンの接種状況、感染症等の有無など） * 保護者等からの聞き取りだけでは判断できない場合、健康診断を受けさせるなどの必要な対応を行っている | | |
| その他工夫している点 | | | |
|  | | | |
| ◆評価の留意点  一時保護の開始にあたり、子どもの家庭の状況、心身の状況、性格、それまでの成長・発達の状況等を把握しているかを確認します。保護者から十分な情報が得られない場合には、子どもに直接確認を行うなどにより、情報把握に努めているかを確認してください。  一時保護は集団生活となるため、集団生活をさせても問題がないかを確認しておく必要があります。そのため、原則として、ワクチンの接種状況やアレルギーの有無について保護者等から聞き取りを行い把握しているか、健康診断を受けさせ、感染症等の問題がないかを把握しているかを確認してください。  なお、保護開始時に必要な情報が得られていない場合には、保護開始後に関係機関等と連携し、迅速に情報収集を行っているかも確認してください。 | | | |

##### 保護開始にあたり、関係機関等と連携して総合的なアセスメントを行い、支援方針を決定しているか

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| **[No.56]　保護開始にあたり、関係機関等と連携して総合的なアセスメントを行い、支援方針を決定しているか**  ◆ねらい  保護開始にあたり、児童相談所や関係機関との調整等による総合的なアセスメントが行われているかを評価します。 | | | |
|  | | | |
|  | | ［No.56］の評価（s,a,b,c） |  |
|  | | | |
| 判断基準  （✓評価の視点・ポイント） | | | 評価  （○,△,×） |
| チームで情報共有しながらアセスメントが行われているか | | |  |
|  | * 保護開始にあたり、関係機関との総合的なアセスメントが行われている * 保護開始時に十分なアセスメントができてない場合には、保護開始後に迅速にアセスメントが行われている | | |
| 総合的なアセスメントに基づく個別援助指針（援助方針）が策定されているか | | |  |
|  | * 総合的なアセスメントに基づく援助指針が策定されている * 虐待の影響による症状が出ている場合には、生活の中での治療を第一選択としている * 保護開始時に、子どもの状況及び支援指針を各職員が把握できている | | |
| その他工夫している点 | | | |
|  | | | |
| ◆評価の留意点  子どもの援助指針（援助方針）を立てるにあたっては、児童福祉司、相談員等に行われる子どもとその家族への面接及び親族や地域関係者との面接を含むその他の調査に基づく社会診断、児童心理司等による心理診断、医師による医学診断、一時保護部門の職員による行動診断等をもとに、これらの関係者の協議により、総合的なアセスメントを行う必要があります。  保護開始にあたり、このようなアセスメントが行われ、援助指針（援助方針）が立てられているかを確認します。  また、保護開始時に子どもの背景となる家族の状況や生育歴、身体的成長の状況等を各職員が把握していることが、一時保護中の適切なアセスメントにつながることから、保護開始時の子どもの状況をチームで情報共有できているかを確認してください。  なお、保護開始時に十分なアセスメントができていない場合には、保護開始後に迅速にアセスメントが行われているかを確認します。 | | | |

## 個別援助指針（援助方針）の策定及び個別ケアの実施

##### 援助指針に沿った個別ケアを行っているか

**[No.57]　援助指針に沿った個別ケアを行っているか**

◆ねらい

子ども一人ひとりについて、援助指針に沿ったケアが行われているかを評価します。

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | | | |
|  | | | |
|  | | ［No.57］の評価（s,a,b,c） |  |
|  | | | |
| 判断基準  （✓評価の視点・ポイント） | | | 評価  （○,△,×） |
| 個別援助指針（援助方針）に基づく個別ケアを大前提とした子どもの養育・支援が行われているか | | |  |
|  | * 子ども一人ひとりの援助指針に沿ったケアが行われている * 子どもに関する面会、電話、手紙等への対応は、個別援助指針（援助方針）に沿って行われている * 援助指針は子どもの状況に応じた個別ケアが大前提となっている * 個別対応が必要な場合には、個別対応プログラムを作成している * 一律に集団生活のルールを押し付けるような養育・支援は行っていない | | |
| その他工夫している点 | | | |
|  | | | |
| ◆評価の留意点  一時保護中の子どものケアの大前提は個別ケアです。日課は、生活を構造化し、子どもにこれから先の見通しを持たせることで安心感をもってもらうための１つのツールではありますが、それぞれの背景が全く異なるところから保護された子どもたちに一律に集団生活のルールを押し付けることは権利侵害にあたると考える必要があります。また、年齢による必要な支援の違いや、特別な配慮を必要とする子どももいることから、援助指針に基づく子ども一人ひとりの状況を踏まえたケアを行わなくてはなりません。  子ども一人ひとりの援助指針に沿ったケアが行われているかを記録等により確認します。 | | | |

##### 一時保護中において、子どもの変化に応じた支援方針の見直し等が行えているか

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| **[No.58]　一時保護中において、子どもの変化に応じた支援方針の見直し等が行えているか**  ◆ねらい  一時保護中の子どもの状況変化等に応じ、援助指針の見直しや対応を行えているかを評価します。 | | | |
|  | | | |
|  | | ［No.58］の評価（s,a,b,c） |  |
|  | | | |
| 判断基準  （✓評価の視点・ポイント） | | | 評価  （○,△,×） |
| 積極的に子どもと関わり、細かなやりとりを通じた子どもへのアセスメントを行っているか | | |  |
|  | * 子どもとの関わりを通じ、子どもの言動・特徴・感情、過去の経験や家族関係を含めた、子どもの理解に努めている * 一時保護中に、子どもの持つ家庭像を含めた子どもへのアセスメントを行っている * 子どもが問題行動を表出した場合には、トラウマ体験やアタッチメントの問題などとの関連性を吟味している | | |
| 子どもの変化に応じた支援が行われているか | | |  |
|  | * 子どもとの関わりの中で把握した子どもの状況や変化に応じた養育・支援を行っている * 子どもの状況や変化により、必要に応じて個別援助指針の見直しを行うための仕組みがある | | |
| 必要以上に長期間の保護が行われていないか | | |  |
|  | * 必要以上に長期間の保護とならないよう、定期的なアセスメント、個別援助指針の評価、見直しが行われている * 一定期間以上の保護を行っている子どもについては、その理由が明確になっている | | |
| その他工夫している点 | | | |
|  | | | |
| ◆評価の留意点  一時保護中の子どもは、様々な面において変化がみられます。子どもと職員との関係や、生活の一つ一つへの反応など、日常生活を子どもと共にするなかで、子どもに積極的にかかわりながら、子どもの言動、認知、感情、関係性などの特徴や変化を把握し、子どもへの支援につなげていくことが必要です。  一時保護中の子どもの状況を把握するためのアセスメントの視点をかかわりができているか、その結果を支援方針等に反映するなど、子どもの変化に応じた支援を行うための仕組みがあるかを確認します。  また、必要以上に長期間の保護が行われていないかも確認してください。 | | | |

## 子どもの観察

### 子どもの観察

##### 一時保護中の子どもについて、行動観察が適切に行われているか

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| **[No.59]　一時保護中の子どもについて、行動観察が適切に行われているか**  ◆ねらい  一時保護所全体として子どもの行動観察を行うための仕組みがあるか、行動観察を行うべき視点が適切かについて評価します。 | | | |
|  | | | |
|  | | ［No.59］の評価（s,a,b,c） |  |
|  | | | |
| 判断基準  （✓評価の視点・ポイント） | | | 評価  （○,△,×） |
| 子どもの全生活場面について行動観察を行っているか | | |  |
|  | * 子どもと定期的に面談等を行っている * 担当者は、種々の生活場面の中で子どもと関わりながら子どもの状況を把握している * 定期的に他職員と観察結果の比較検討等を行っている | | |
| 子どもの行動観察の結果を記録しているか | | |  |
|  | * 客観的事実と所見が区分して書かれている | | |
| その他工夫している点 | | | |
|  | | | |
| ◆評価の留意点  子どもの状況に応じた個別援助指針（援助方針）を定めるためには、子どもの全生活場面での行動観察が必要となります。  種々の生活場面の中で子どもと関わりながら子どもの状況を把握しているか、観察している視点が適切かについて、記録等から確認します。  また、より子どもの状況を的確に把握するためには、定期的に他の職員と観察結果の比較検討をするなどして総合的な行動観察を行うことが必要となるため、その取組みが行われているかについて、記録及びヒアリング等にて確認します。 | | | |

### 観察会議等の実施

##### 観察会議が適切に実施されているか

**[No.60]　観察会議が適切に実施されているか**

◆ねらい

一時保護所内全体で、子どもの状況について十分に把握し、個別援助指針（援助方針）を決めるための仕組みがあるかを評価します。

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | | | |
|  | | | |
|  | | ［No.60］の評価（s,a,b,c） |  |
|  | | | |
| 判断基準  （✓評価の視点・ポイント） | | | 評価  （○,△,×） |
| 職員は、業務引継を適切に行っているか | | |  |
|  | * 担当する子どもの状況について、職員が十分に把握できている | | |
| 原則として、週1回は観察会議を実施しているか | | |  |
|  | * 週1回の観察会議を実施している * 観察会議では、子どもの行動観察結果及び子どもの意見、そこから考えられる行動の背景、援助方針について確認し、行動診断を行っている * 観察会議には、担当の児童福祉司や児童心理司等が参加している * 観察する上で、長所（ストレングス）と短所（課題）の両面を意識している * 観察会議を適切かつ効果的に行うための工夫がされている | | |
| 観察会議の結果を、判定会議に提出しているか | | |  |
|  | * 観察会議の結果を判定会議に提出する仕組みがある | | |
| その他工夫している点 | | | |
|  | | | |
| ◆評価の留意点  職員は業務引継を適切に行い、その担当する子どもの状況について十分に把握することが必要です。  週１回程度の観察会議が実施されているか、観察会議において、個々の子どもの行動観察の結果、聴取できた子どもの意見、そこから考えられる子どもの行動の背景、それに基づく個別援助指針（援助方針）についての確認及び行動診断が行われているかを、観察会議の記録等から確認します。  また、観察会議には、担当の児童福祉司や児童心理士等が参加しているか、観察会議の結果が判定会議に提出されているか等、観察会議を適切に行うための仕組みがあるかも確認してください。 | | | |

# 一時保護の開始及び解除手続き

## 開始手続き

### 保護開始に関わる支援・連携

##### 保護開始にあたり、必要な支援が適切に行われているか

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| **[No.61]　保護開始にあたり、必要な支援が適切に行われているか**  ◆ねらい  一時保護を行うにあたり、子どもや保護者の状況に応じた、必要な支援が提供できているかを評価します。 | | | |
|  | | | |
|  | | ［No.61］の評価（s,a,b,c） |  |
|  | | | |
| 判断基準  （✓評価の視点・ポイント） | | | 評価  （○,△,×） |
| 子どもや保護者の状況等に応じた必要な支援が行われているか | | |  |
|  | * 一時保護を行うにあたり、必要となる可能性のある支援が明確になっている * 必要となる可能性のある支援について、その対応や留意点等が明確になっている * 健康診断等の受診が必要な場合、受診に必要な支援を行っている * 子どもや保護者に対する説明等において、必要な支援を行っている * その他、必要と思われる支援について、関係機関との連携のもと、必要な支援を行っている | | |
| 日用品、着替え等を持っていない子どもに対しては、個人として所有できる生活に必要なものを支給又は貸与しているか | | |  |
|  | * 日用品、着替え等をも持っていない子どもに対しては、個人として所有できる生活に必要なものを支給または貸与している * 支給または貸与は、初日に行えるよう準備されている | | |
| その他工夫している点 | | | |
|  | | | |
| ◆評価の留意点  保護開始にあたっては、養育・支援に必要な情報の把握、集団生活が可能かの判断、子どもや保護者に対する説明等、様々な手続きが必要となります。それらの手続きにおいて、子どもや保護者の状況等に応じた必要な支援が行えているかを確認します。  また、一時保護中に必要な日用品や着替え等については、保護者等に準備するよう依頼しますが、日用品、着替え等を持っていない子どもがいた場合には、必要なものを受入初日に支給または貸与できているかを確認してください。 | | | |

### 子どもの所持物

##### 一時保護中の子どもの所持物について、適切な対応が行われているか

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| **[No.62]　一時保護中の子どもの所持物について、適切な対応が行われているか**  ◆ねらい  一時保護中の子どもの所持物について、必要な配慮や対応が行われているかを評価します。 | | | |
|  | | | |
|  | | ［No.62］の評価（s,a,b,c） |  |
|  | | | |
| 判断基準  （✓評価の視点・ポイント） | | | 評価  （○,△,×） |
| 子どもにとって心理的に大切な物については、一時保護期間中に子どもが所持できるよう配慮しているか | | |  |
|  | * 子どもの福祉を損なう恐れのあるもの以外は、可能な限り子どもが所持できるよう配慮されている * 子どもの状況や子どもからの聞き取り等により、子どもにとって心理的に大切なものが何かを確認している | | |
| 一時保護期間中、子どもが所持する物については、記名しておく等子どもの退所時に紛失していないよう配慮しているか | | |  |
|  | * 子どもの所持する物について、一時保護期間中のルールについて、丁寧に説明している * 所持品簿を作成している * 現金等の貴重品が適切に管理されている | | |
| 所持物の中に麻薬、覚せい剤や危険ドラッグ等がある場合には、直ちに警察に連絡しているか | | |  |
|  |  | | |
| その他工夫している点 | | | |
|  | | | |
| ◆評価の留意点  一時保護した子どもの所持する物のうち、子どもの福祉を損なうおそれのある物以外は、可能な限り子どもが所持できるよう配慮しなくてはなりません。特に、可能なかぎり子どもに安心できる環境を提供するという観点から心理的に大切なものについては配慮が必要であり、どのような対応を行っているかを確認してください。  また、一時保護中に子どもが所持する、衣類、雨具、玩具等については、紛失のないよう、記名しておく等の工夫が行えているか、預かるものについては台帳等により管理を行っているかを確認します。  子どもが所持する必要のない物は保護者に返還されているか、麻薬や覚せい剤、危険ドラック等がある場合には直ちに警察に連絡しているかについても確認が必要です。 | | | |

## 解除手続き

### 保護解除に係る支援・連携

##### 保護解除にあたり、関係機関等に対し、必要な情報が適切に提供されているか

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| **[No.63]　保護解除にあたり、関係機関等に対し、必要な情報が適切に提供されているか**  ◆ねらい  保護解除時または保護の継続判断を行う場合の、子どもに関する情報提供の内容やその方法を評価します。 | | | |
|  | | | |
|  | | ［No.63］の評価（s,a,b,c） |  |
|  | | | |
| 判断基準  （✓評価の視点・ポイント） | | | 評価  （○,△,×） |
| 一時保護の継続判断を行うために、児童相談所等に必要な情報の提供をしているか | | |  |
|  | * 一時保護中の子どもの様子等について、児童相談所等に情報提供している * その他、一時保護の継続判断を行うために情報提供すべき内容が明確になっており、その内容が的確である * 児童相談所等への情報提供は適切なタイミングで行われている * 情報提供にあたり、その情報が的確に伝わるよう、情報提供の方法などを工夫している | | |
| 一時保護中に得られた子どもに関する情報を適切に引き継いでいるか（成育歴、強み・長所、継続的な取組等） | | |  |
|  | * 成育歴、強み・長所、継続的に取り組むべき事項等について、一時保護中に得られた子どもに関する情報について、施設職員や里親等に情報提供している * その他、保護解除後にも継続的な支援を行うために情報提供すべき内容が明確になっており、その内容が的確である * 施設職員や里親への情報提供は、適切なタイミングで行われている * 保護所の職員から施設職員や里親に引継ぎやカンファレンスが適切に行われている * 情報提供すべき内容が的確に伝わるよう、情報提供の方法などを工夫している | | |
| その他工夫している点 | | | |
|  | | | |
| ◆評価の留意点  保護解除後にも、新しい生活先の状況に応じた関係機関等による継続的な支援が行われるよう、一時保護期間中に得られた子どもの情報の引継が必要です。  保護解除時の引継内容、その方法を確認し、必要な情報が適切に引き継がれているか、その仕組みがあるかを確認します。また、保護解除時のみならず、保護の継続判断を行う場合等における情報提供の内容・方法についても確認してください。 | | | |

### 子どもの所持物

##### 保護解除にあたり、子どもの所持物について、適切な対応が行われているか

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| **[No.64]　保護解除にあたり、子どもの所持物について、適切な対応が行われているか**  ◆ねらい  一時保護の解除にあたり、子ども所持物について、必要な手続きや判断が行われているかを評価します。 | | | |
|  | | | |
|  | | ［No.64］の評価（s,a,b,c） |  |
|  | | | |
| 判断基準  （✓評価の視点・ポイント） | | | 評価  （○,△,×） |
| 子どもの所有物は、一時保護解除時に返還しているか | | |  |
|  | * 所持物の返還時には、受領証を徴している | | |
| 子ども以外の者への返還は、適切に行われているか | | |  |
|  | * 子どもが所持することが子どもの福祉を損なうおそれのある物は、保護者等に返還している * 子ども以外の者が返還請求権を有することが明らかな保管物は、その権利者に返還している * 触法事件に関する物の権利者への返還にあたっては、警察と協議の上、返還を決定している * 権利者への返還にあたっては、権利を有しているかについて、各種資料に基づき慎重に行っている * 一時保護中の子どもの死亡等の場合において遺留物がある場合には、保護者等の遺留物受領人に交付している | | |
| その他工夫している点 | | | |
|  | | | |
| ◆評価の留意点  保管物が子どもの所持品である場合には、一時保護を解除する際に、その子どもに返還する必要があります。ただし、子どもが所持することが子どもの福祉を損なうおそれのある物については、子どもの保護者等に返還するなどの対応が必要です。  子どもに返還すべき所持品がもれなく返還されているか、また、子どもに返還すべきものか否かの判断が適切に行われているか、子どもへの返還が不適切なものについて、保護者等への返還が行われているかを確認します。  保管物の返還にあたっては、後のトラブルを避けるため、受領証を受け取る等の手続き上の工夫がなされているかも確認してください。 | | | |